令和5年12月14日

令和5年第4回和束町議会定例会

(第1号)

和 東 町 議 会

令和 5 年 第 4 回 和 東 町 議 会 定 例 会

会 議 録 （ 第 1 号 ）

招 集 年 月 日 令 和 5 年 1 2 月 1 4 日 （ 木 ）

招 集 の 場 所 和 東 町 議 会 議 場

開 閉 議 日 時 開 議 午 前 9 時 3 0 分

 閉 議 午 後 4 時 3 0 分

出 席 議 員 （ 9 名 ）

1 番	村	山	一	彦	2 番	宗	健	司
3 番	山	本	達	也	4 番	高	山	豊彦
5 番	井	上	武	津男	6 番	岡	本	正意
7 番	畑		武	志	8 番	小	西	啓
1 0 番	吉	田	哲	也				

欠 席 議 員 （ 1 名 ）

9 番 岡 田 勇

職 務 の た め 議 場 に 出 席 し た 者 の 氏 名

事 務 局 長 細 井 隆 則

書 記 西 田 絵 美

地方自治法第121条の規定により、説明のため議会に出席した者の職氏名

町	長	馬	場	正	実		
副	町	長	奥	田	右		
総	務	課	長	岡	田	博	之
総務課	地方創生担当課長	富	田	幸	彦		
地域力推進課長	原	田	敏	明			
人権啓発課長	中	尾	政	弘			
税住民課長	吉	田	敏	江			
福祉課長	北	広	光				
診療所事務長	島	川	昌	代			
総合施設整備課長	但	馬	宗	博			
農村振興課長	松	井	幸	則			
建設事業課長	井	上	博	丞			
会計管理者兼会計課長	榎	木	由	佳			

議	事	日	程	別	紙	の	と	お	り								
会	議	に	付	し	た	事	件	別	紙	議	事	日	程	の	と	お	り
会	議	の	経	過	別	紙	の	と	お	り							
会	議	録	署	名	議	員	1	番	村	山	一	彦					
							2	番	宗	健	司						

議事日程（第1号）

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 会期の決定
- 日程第 3 諸般の報告
- 日程第 4 閉会中の委員会調査及び一部事務組合議会の報告
- 日程第 5 一般質問
- 日程第 6 同意第18号 和束町有財産管理委員会委員の委嘱について
- 日程第 7 同意第19号 固定資産評価審査委員会委員の選任について
- 日程第 8 議案第38号 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第 9 議案第39号 和束町国民健康保険税条例の一部を改正する条例
- 日程第10 決議第 1号 ガザ地区での戦闘の即時停戦を求める決議
- 日程第11 請願第 1号 B & G 海洋センタープール再開および体育館の改修に関する請願
- 日程第12 請願第 2号 建設アスベスト被害者の救済とアスベスト対策の拡充を求める意見書の提出を求める請願

午前 9 時 3 0 分開会

○議長（吉田哲也君）

皆さん、おはようございます。本日はご苦勞さまです。

ただいまから、令和 5 年和東町議会第 4 回定例会を開会いたします。

本日、新型コロナウイルス感染症防止対策として議場内扉 3 か所を開放し、空気清浄機を設置、演台にはアクリル衝立板を設置しております。

また、マスクの着脱について、本議会議場におきましては各個人の自由といたします。なお、マスクを着用される場合は声が聞き取りにくいと思われますので、質問、答弁の際には、必ずマイクに近づいて発言していただきますようよろしくお願いいたします。

町長、挨拶。

○町長（馬場正実君）

改めまして、おはようございます。

令和 5 年第 4 回定例会を招集させていただきましたところ、議員各位には年末を控え、何かとお忙しい中、ご参集賜り、ありがとうございます。

さて、令和 5 年を振り返りますと、基幹産業の茶業は暖冬に始まり、防霜被害もほぼ受けず、3 月末の萌芽宣言と好調な滑り出しをしたかのように思いましたが、長引くコロナ禍の影響、不安定な世界情勢の影響を受け、物価・原油高騰などの影響、災害管理、経営には苦慮されたと聞き及んでいます。また、日常生活にもその影響は大きく出ているところで、まだまだ先行きが不透明といった状況が続くという予測がされています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症は 5 月に感染分類が 5 類に引き下げられたことにより、観光客などは 8 月頃から徐々に増え始め、多種多様のイベントなどの開催も徐々に戻りつつあるところでございます。

私にとりましては、今期定例会につきまして 2 回目となるところでございますが、

前回第3回定例会にご意見をいただきました経済対策交付金などの要望ですが、臨時国会において12月1日に成立しました補正予算により確定しました経済対策交付金をどの自治体よりも早く今期補正予算として計上させていただき、令和6年早々にも住民の下に届けられるよう職員が一丸となって準備を進めているところでございます。

本町の財政状況はまだまだ厳しいところではあります、国が制度化・予算化され、住民の方々にいち早く届けることが目的であるとするならば、可能な限りにおいて優先し、事務処理を進めてまいりたいと考えていますので、ご理解のほうをよろしくお願いいたします。

さて、今期定例会におきましては、同意案件2件、議案16件を提案させていただきます。慎重審議をいただき、全ての同意・議案についてご承認賜りますようお願い申し上げます、令和5年第4回定例会開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。

本定例会、よろしくお願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

本日の会議を開きます。

岡田 勇議員から欠席の届けが出ています。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第125条の規定により、1番、村山一彦議員、2番、宗 健司議員を指名いたします。

以上の両議員に差し支えのある場合には、次の議席の議員をお願いをいたします。

日程第2、会期の決定の件を議題といたします。

お諮りいたします。

今期定例会の会期は、本日から12月22日までの9日間としたいと思います。

これにご異議ありませんか。

異議なしと認めます。

したがって、今期定例会の会期は、本日から12月22日までの9日間と決定いた

しました。

日程第3、諸般の報告を行います。

議長より報告いたします。

1 1月28日付で和東町商工会会長、井上勝司氏から商工会に対する財政援助の強化について、商工会への支援及び財政援助の強化について、以上2件の要望書が出されております。

監査委員より、令和5年8月31日現在、令和5年9月30日現在、令和5年10月31日現在の例月出納検査結果の報告がありましたので、結果報告の閲覧を希望の議員は事務局にてご覧ください。

会議規則127条の規定により実施いたしました議員派遣については、お手元に配付しております一覧表のとおりでございますので、ご覧ください。

以上で報告を終わります。

日程第4、閉会中の委員会調査及び一部事務組合議会の報告を求めます。

初めに、総務厚生常任委員長、畑 武志議員。

○総務厚生常任委員長（畑 武志君）

改めまして、皆さん、おはようございます。

総務厚生常任委員会報告をいたします。

本委員会は、12月4日に、町長、副町長、関係課長、課長補佐の出席を求め、令和5年度各課事業の進捗状況について事務調査を行いました。

令和5年度一般会計予算の執行状況は、前年度からの繰越を除く44億3,360万円の予算に対し、歳入62.7%、歳出47.87%の執行状況となっています。

主な事業の進捗状況を見ますと、ふるさと応援寄附金事業ではクレジット決済可能となり納入しやすい環境性が整備され、11月20日時点で176件、232万8,000円の寄附があり、前年度と比較し約1.7倍となっています。

茶源郷乗合交通生活お届け事業は本年4月1日から実証運行され、11月20日現

在で264人が登録されており、また、利用者数は前回の報告時より960人増え、2,471人となっている。

消防団運営事業では、今年7月に入札された小型動力ポンプ付積載軽自動車は3月初旬に納入予定である。

11月20日現在の町税の予算現額に対する収納率は72.29%であり、ほぼ例年通りの率となっている。1世帯当たり3万円を給付する価格高騰緊急支援給付事業では、対象568世帯に対し、約96%に当たる546世帯に支給決定された。

小児インフルエンザ予防接種費用助成事業は中学3年生までが対象で、小学生までは年度2回、中学生は年度1回まで全額助成し、罹患低減を図られている。

その後、質疑に入り、各委員からは、ジェネリック医薬品の製薬会社の不正事件により医薬品の流通不足が懸念されているが、診療所においては賄えているのか。出産一時金や出産・子育て応援給付金の支給実績から少子化が進んでいるのが分かる、子育て施策は先進的であるので積極的にPRすべき。鷲峰山トンネル開通後を見据えた公共交通施策は見直すのか。また、人生100年時代、誰でも安心して過ごせることが求められているが、認知症の進行や犯罪等の不安材料に対し木津信楽線沿線への防犯カメラの設置について京都府に要望できないか、また、補助制度の充実を。交通機関の少ない町ではライドシェアを導入すべきではないか。また、町税の滞納の処理方法などについて、活発な質疑や意見など出されました。

その後、所管外ではありますが、簡易水道事業・下水道事業への地方公営企業法の適用について、建設事業課長や担当者から導入の経過やその内容などについて説明を受けました。

以上、報告といたします。

○議長（吉田哲也君）

続きまして、産業常任委員長、岡本正意議員。

○産業常任委員長（岡本正意君）

皆さん、おはようございます。産業常任委員長の岡本正意です。

ただいまから、去る12月1日並びに5日に開催した産業常任委員会の報告を行います。

12月1日の委員会は、来年度から予定されている地方公営企業法に基づく公営企業会計を簡易水道と下水道に適用する方針とともに、その内容について説明を受け、質疑を行うことに絞って開催しました。

公営企業会計では常に企業の経済性発揮が求められ、独立採算の原則が法で規定されています。一方で、本来の目的である公共の福祉を増進する運営が求められ、一定の基準に基づく一般会計からの繰入れも認められます。根拠法である「地方公営企業法」において簡易水道や公共下水道の法適用は任意ではありますが、国は、公営企業の基盤強化や広域化、民間活用等の抜本的改革に不可欠として適用を推進するとともに、簡易水道における高料金対策等に係る交付税措置や補助金の配分等を来年度からの公営企業会計の適用を要件化する措置も実施してこられました。公営企業会計に伴う変化について町は、水道供給や下水道処理、維持管理などでは大きく変わらず、財務に関する事項が大きく変わるとされています。

具体的には、従前の官庁会計では現金の動きのみの把握であったが、企業会計では資産を含む経営状況の把握が可能となるとし、それにより適切な経営方針を定めることができ、必要な住民サービスを将来にわたり安定的に提供し、持続可能な経営基盤を確保できるとされました。

委員からは、適用の法的根拠、経済性と公共の福祉増進の両立可能性、法適用による水道事業の見通し等について意見が出されました。町は、法の適用に伴う関係条例の制定、改正を本12月議会に提案する予定です。

次に、12月5日の委員会では、令和5年度事業の進捗状況について、副町長並びに地域力推進課、総合施設整備課、農村振興課、建設事業課の各課長から報告を求め、審査いたしました。

また、午後からは、工事が完成し、12月10日の開通式を控えた中地域の祝橋の現地調査を行いました。

各課からの事業進捗状況の報告を受けて各委員からは、全住民的な物価高騰への支援について、公営企業会計移行による料金軽減の可能性について、雇用促進協議会の今後について、イノシシやシカ対策、おり設置の講習について、石寺橋工事による通行止めについて、観光客向けの飲食店情報の更新や発信について、和東茶カフェ裏の大型観光バス用駐車スペースについて、相楽東部3町村のごみ処理の方向性について、鷺峰山トンネル内の電波確保や安全対策について、府道沿い歩道の防犯灯設置や草刈りについて、解体撤去した町営住宅についてなどの意見が出されました。

行政からは、「補正予算で物価高対策として1人5,000円の商品券を予定している」、また、「企業会計移行による料金への影響は一度決算を打たないと不明であり、経過を見て検討する」、「雇用促進協議会は一定の成果はあったが、一旦事業を終息し、次のステップを考えたい」、「イノシシやシカ対策は猟友会と相談し、おり設置の講習も猟友会に委託している」、「石寺橋工事に伴う通行止めへの対応は徹底したい」、「飲食店情報の更新や発信に努めることや、また、カフェ裏の駐車場にバススペースはないが、必要な際に空けるようにしている」、「東部3町村のごみ処理の方向性は、笠置・南山城は定住自立圏の中で伊賀市等との協議を進めているが、連合としての話はまだない中、和東は京都府の広域の動きを見ながら判断していきたい」、「トンネル内では電波確保はなく、長さが3キロ未満なので非常通路的な設備もないが、500メートルごとの非常時スペースは設置される」、「府道沿いの防犯灯設置などは府に要望している」、「解体した第6中西住宅は撤去し、建替えは行わない」などの答弁がありました。

午後の審議に入る前に中地域の祝橋工事現場を調査し、完成した橋について説明を受け、状況を確認しました。祝橋は12月10日に開通式が行われ、供用を開始しております。

以上で、産業常任委員会の報告を終わります。

○議長（吉田哲也君）

続いて、一部事務組合議会の報告を求めます。

初めに、相楽広域行政組合議会、村山一彦議員。

○相楽広域行政組合議会議員（村山一彦君）

それでは、私のほうからは、相楽広域行政組合議会についてご報告させていただきます。

令和5年第2回相楽広域行政組合議会定例会が令和5年11月27日午後1時30分より相楽会館大ホールにて開催されました。

初めに、杉浦代表理事よりご挨拶がありました。次に一般質問に移り、精華町の坪井議員が一般質問をされました。その後、議案の審議に入り、まず、認定第1号、令和4年度相楽郡広域事務組合一般会計歳入歳出決算認定については、歳入総額2億5,594万7,035円、歳出総額2億5,049万8,290円、差引額544万8,745円で、質疑の後、全員賛成で認定されました。

続いて、認定第2号 令和4年度相楽地区ふるさと市町村圏振興事業特別会計歳入歳出決算認定については、歳入総額7億5,458万7,457円、歳出総額7億3,332万8,280円、歳入歳出差引額は2,125万9,177円で、質疑はなく、全員賛成で認定されました。

続いて、議案第15号 相楽広域行政組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例については質疑はなく、全員賛成で可決されました。

続いて、議案第16号 相楽広域行政組合会計年度任用職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例についても質疑はなく、全員賛成で可決されました。

続いて、議案第17号 福祉センター相楽会館の管理に関する条例の一部を改正する条例は、相楽会館における貸館業務を令和6年3月31日に廃止するためのものであり、質疑の後、全員賛成で可決されました。

最後に、議案第18号 令和5年度相楽広域行政組合補正予算については、令和5年度一般会計予算に歳入歳出それぞれ656万7,000円を増額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2億9,356万7,000円とするもので、質疑の後、賛成多数で可決されました。

以上、報告といたします。

○議長（吉田哲也君）

続きまして、相楽中部消防組合議会、畑 武志議員。

○相楽中部消防組合議会議員（畑 武志君）

続きまして、相楽中部消防組合議会報告を行います。

当組合議会は、令和5年11月27日午前10時から、中部消防組合庁舎3階で開会されました。また、全議員の出席の下、開会されました。

最初に、同意第3号では、相楽中部消防組合公平委員会の委員の選任について、前回に引き続き、藤木美能里氏を再任し、賛成者全員で可決同意いたしました。

認定第1号 令和4年度相楽消防組一般会計歳入歳出決算の認定についてが議題となりました。歳入総額19億1,232万3,380円、歳出総額18億7,547万747円、歳入歳出差引額は3,685万2,633円で、賛成者多数で可決されました。

議案第10号では、相楽中部消防組合行政手続条例の一部改正について、行政手続法の一部を改正する法律の施行に伴い、所要の改正を行うもので、賛成者全員で可決されました。

議案第11号では、相楽中部消防組合会計年度任用職員の給与に関する条例の一部改正について、会計年度任用職員の勤勉手当について支給が可能となることから、所要の改正を行うもので、採決の結果、賛成者全員で可決。

議案第12号では、相楽中部消防組合職員の給与に関する条例の一部改正について、令和5年8月7日に人事院から、国家公務員給与の改定の勧告が行われ、令和5年1

1月17日に一般職の職員の給与に関する法律等の一部を改正する法律案が国会で可決されたことを受け、給与改定を実施するため、関連する条例の一部を改正するものであり、採決の結果、賛成者全員で可決されました。

議案第13号 相楽中部消防組合火災予防条例の一部改正についてでございます。質疑の結果、採決され、賛成者全員で可決。

議案第14号では、相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事請負契約の締結について、その後、質疑があり、採決の結果、賛成者多数で可決されました。

議案第15号では、令和5年度相楽中部消防組合一般会計補正予算（第1号）について、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2億9,442万8,000円を減額し、歳入歳出それぞれ32億8,797万2,000円といたしました。その後、質疑があり、採決の結果、賛成者多数で可決されました。

報告第1号では、専決処分の報告について、公用車の接触事故により物件に与えた事故による損害賠償13万2,000円を専決処分した報告でありました。

その後、管理者から、令和6年度出初式については、令和6年1月5日（金）午前10時から、相楽台小学校で開催予定とのことでございます。

以上、報告といたします。

○議長（吉田哲也君）

続きまして、山城病院組合議会、井上武津男議員。

○山城病院組合議会議員（井上武津男君）

それでは、私のほうから、国民健康保険山城病院組合議会報告を行います。

本議会は、令和5年11月24日午前9時30分から、京都山城総合医療センター会議室で開催されました。

開会に先立ち、令和5年6月29日にご逝去された堀 忠雄前和束町長のご冥福をお祈りして、全員で黙祷を行いました。

また、令和5年8月13日に和束町長に選出された馬場正実町長から自己紹介があ

りました。

日程第3、諸般の報告及び議案説明。

管理者から、病院組合の近況報告及び本定例会への提出議案などの説明がありました。

日程第4、一般質問。

南山城村の齋藤和憲議員及び木津川市の西山幸千子議員の2名からの一般質問があり、理事者側の丁寧な応答により終了。

日程第5、承認第2号 専決処分の承認を求めることについて。

介護老人保健事業会計補正予算について、温水ボイラーが故障し、修理不能なことから取替工事を行う必要があったため、専決処分をしたもの。挙手全員で承認。

日程第6、承認第3号 専決処分の承認を求めることについて。

病院事業会計補正予算について、手術室の手術ベッドが経年劣化に伴い故障し、更新する必要があったため専決処分をしたもの。全員挙手で承認。

日程第7、承認第4号 専決処分の承認を求めることについて。

3階病棟のICUをHCUに変更することに伴い、国民健康保険山城病院組合組織条例の一部を改正する条例について、令和5年11月1日に、施設基準の届出を行う必要があったため、専決処分をしたもの。挙手全員で承認。

日程第8、認定第1号 令和4年度国民健康保険山城病院組合病院事業会計決算認定について。

事業収支全体では約9億8,077万円と、前年度比約4億7,345万円の増加となった。事業費用全体では約8億7,388万円と、前年度比約4億2,003万円の増加となった。結果、令和4年度は約3億9,689万円の純利益を計上する2期連続の黒字決算となった。挙手全員で認定。

日程第9、認定第2号 令和4年度国民健康保険山城病院組合介護老人保健施設事業会計決算認定について。

収益的収支の状況は、収入では前年度比で6,329万円の減収となった。支出では10月から入所定員が100名から66名に減少したことにより、前年度比で4,081万円の減額となった。結果的には、約3,859万円の赤字決算となった。挙手全員で認定。

日程第10、議案第10号 国民健康保険山城病院組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について。

令和5年8月7日付人事院勧告に基づき、諸手当の引上げ改正を行うもの。挙手全員で可決。

日程第11、議案第11号 令和5年度国民健康保険山城病院組合病院事業会計補正予算（第2号）について。

磁気共鳴画像撮影装置について、令和6年度に更新計画しているが、半導体等の部品供給の遅れに備え、早期の調達手続を行うために債務負担行為の補正を行うもの。挙手全員で可決。

以上、提案された全ての承認・認定・議案において可決され、当日の日程を終了いたしました。

以上、報告といたします。

○議長（吉田哲也君）

以上で、報告を終わります。

日程第5、一般質問を行います。

質問時間は、答弁を含み1時間以内といたします。再質問は、制限時間内の質問を許可いたします。答弁は簡潔・明瞭にてお願いいたします。質問者及び答弁者のご協力をお願いいたします。

初めに、井上武津男議員。

○5番（井上武津男君）

議長の許可を得ましたので、通告に基づき一般質問を行います。

大きなテーマ三つで質問いたします。

1. 林業家・農家減少による山林・竹林の荒廃放置農地での農地の荒廃問題をどのように解決されようとしているのか。

2. 「美しい村連合」に加入し続ける方策は。

3. 観光人口が増加しているが、町に観光課の必要性は。

(1) 観光に特化した考え方はあるか。

(2) ガストロノミーツーリズムの考え方が必要になってくるのではないか。

(3) サステイナブルツーリズムの考え方は。

和東町にとって必要不可欠なものであり、そのための規範や実践方法は。

ちなみに、ガストロノミーツーリズムとは、その土地の気候・風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しみ、食文化に触れることを目的としたツーリズムであり、地域一体型で推進すべきもの、さらにサステイナブルツーリズムとは、持続可能な観光という意味で、マスツーリズム、大衆観光の結果、生じがちな環境や文化の悪化、過度な商業化を避けつつ、観光本来の姿を求めていこうとする考え及び実践であります。これらの質問はこれからの町政策での重要な役割であり、避けては通れないと考え、町長への質問とさせていただきます。

よろしく願い申し上げます。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

それでは、井上議員からいただきました一般質問について答弁をさせていただきます。

最初に、1. 林業家・農家減少による山林・竹林の荒廃放置農地の荒廃問題をどのように解決されようとしているかについて答弁させていただきます。

現在、町内の山林・竹林は、所有者の高齢化や林業就業人口の減少により、管理す

ることが困難になってきており、山林の荒廃が増えている状況です。この解決方法といたしましては、「森林経営管理制度」が挙げられます。これは令和元年度に森林環境譲与税の創設とともに始まった制度で、所有者が管理できなくなった森林を、所有者の同意を得て町が森林の「経営管理権」を借り受け、その森林が林業経営に適する場合は林業事業への橋渡しを、適さない場合は町自らが管理するというものです。こちらの制度を利用する場合、所有者には一切の負担が生じないことや民有林を公費で整備できることなどがメリットに挙げられます。

本町におきましては、従前から府道5号線、要するに木津信楽線沿いの竹林等が荒廃しており、かつ、住民からの要望も多いことから、和東から加茂方面までの和東川沿いの整備を進めております。

なお、令和4年度の実績といたしましては、撰原下津山地内の森林整備を中心に行いました。農地の荒廃問題につきましても、山林・竹林同様に耕作する方が少なくなり、荒廃農地が増えてきている状況となっています。

農地対策に関することではありますが、荒廃農地の抜本的な解決については、耕作者の人口を増やす必要があると考えられます。移住・定住対策をはじめ和東町の人口減少を食い止めるための関係各所の対策が不可欠であると考えています。

農村部署における対策については、国から荒廃農地の担い手を確保するため、令和6年度までに農地を誰が担っていくのかを示す「地域計画」を作成すべく、農業委員会・各関係機関等、話し合いの場を重ねて練り上げていくよう示されているところです。その際、協議の場では、和東町全域の地図に農地を一筆ずつ誰が担っていくのかを示す「目標地図」を作成することとなっています。また、作成して終わりではなく、何度も協議を重ね更新していくこととされています。この「地域計画」や「目標地図」を作成することによって農地を一元的に管理していくというのが方針でございます。

なお、国からの荒廃農地対策等、農業委員会では、荒廃農地に対して雑草等が繁茂しお困りの連絡があった際には、所有者に対して草刈りの通知を出して対応している

ところでございます。

なお、地域計画の細かい点につきましては、担当課のほうが持っておりますので、後に確認していただけたらと思います。

次に、「美しい村連合」に加入し続ける方策はについて答弁させていただきます。

和東町は、平成22年に過疎地域に指定され、少子高齢化が進んでいる状況にあります。さらに、町の基幹産業であるお茶におきましても、後継者不足や荒廃茶園の拡大が課題となっております。そして、このような課題に対しまして、改めてお茶を活用したまちづくりに取り組んできたところです。

その中で茶畑の景観は、和東町で暮らしてきた方々の営みによりつくられた和東町の独自の資産として、平成20年に京都府景観資産登録第1号に登録されました。このような取組を踏まえて、茶畑の景観とそれを取り巻く人々の営みを大切にしていきたい。そして、この地域資源を和東町に暮らす方々の誇りとするとともに、和東町の将来に生かしていきたいという思いから、平成25年に美しい村連合に52番目として加盟したところです。

「日本で最も美しい村」連合加盟におきましては加盟することが目的ではなく、「日本で最も美しい村」連合に加盟し、引き続き美しい村として保全し、それを町の活性化に生かしていくことが重要であると考えております。そうした意味で、「日本で最も美しい村」連合におかれましても再審査の制度が設けられているところであります。

前回、令和元年の再審査におきましては、「新規加入時の課題の着実な達成や景観条例の制定と効果的な展開」及び「鎌倉時代から継承する茶文化」を和東町の地域資源として評価していただいた一方、経済循環を図るため6次産業化の充実、若い世代への起業支援、さらに町内周辺部との連携による地域経済圏の構築などの点においてさらなる取組が必要との審査意見がつけられたところです。

議員ご質問の件につきましては、「日本で最も美しい村」連合の再審査も踏まえ、

住民の皆様と一緒に取り組むことを通じまして、日本で最も美しい村連合の基本理念の共有を図るとともに、美しい村づくりを持続していくための協働のまちづくりに努めていきたいと考えております。

そして、次回の再審査におきまして、それまでの取組を適切に評価いただけるよう進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解のほうをよろしくお願いいたします。

次に、3番の観光人口が増加しているが、町に観光課の必要性はについての質問でございます。

(1) 観光に特化した考え方はあるのかということでございます。

和東町では、これまで茶源郷として培ってきた豊かな文化・歴史に育まれた生業を大切にしながら、様々な取組を進めてまいりました。平成20年には、宇治茶の郷、和東町の茶畑が京都府景観資産第1号に登録され、平成27年には「日本茶800年の歴史散歩」として日本遺産に認定され、鎌倉時代から続く800年の茶業が、近畿経済産業局から「和東茶」の地域ブランド指定を受け、これまでの茶産業を軸とした観光産業への発展をしてきたところです。

現在、茶文化や食文化等の地域資源が豊富な田舎ならではの生活体験を国内外へと発信し、観光誘客や関係人口の拡大、そして将来の移住・定住に向けて取組を進め、日本のふるさととして国内外の人が集い、お茶と観光が融合したまちづくりを目指しているところです。

また、成果目標の一つとして、手の加えられた茶畑が和東町の観光施設であり、住民・事業者・行政が一体となって事業を進め、「飲むお茶から見るお茶へ、そして食するお茶、体験するお茶」へと五感で感じることをコンセプトに周遊観光の好環境の創出事業を展開してまいりたいと考えております。

コロナ禍により、人の価値観、旅の在り方が変化している今日、アグリ観光、ヘルス観光、ビジネス観光につなげていきたいと考えております。

(2) 番、(3) 番のガストロノミーツーリズムの考え方並びにサスティナブルツ

ーリズムの考え方について、和東町にとって必要不可欠なものであり、そのための規範や実践方法については関連がございますので、併せた答弁をさせていただきます。

和東町では、鎌倉時代より続く800年の歴史を紡ぐ茶文化が発展しており、飲むだけでなく五感で楽しめるとして人気の食材の一つとなっています。

茶源郷和東は周囲を山々に囲まれ、清流が流れる里山です。緑の山々、澄み切った空気、和東町特有の気候・風土で美味しいお茶を作り上げてきました。

地元で埋もれているふるさとの味や新たなお茶料理を発掘することを目的に、令和元年度には「茶源郷和東お茶料理コンテスト」を開催し、令和3年度は、お茶や地元野菜を使用した「和東の幸レシピ集」の冊子も発行しており、これらを活かしたおいしい料理を育んだ地域の歴史や産業、伝統を様々な角度から考察し、本町ならではのお茶を使用した食文化の普及に努めております。その魅力を国内外の観光来訪者に体感してもらい、地域の魅力の向上を図ってまいりたいと考えております。

また、サステナブルとして基幹産業を軸とした観光振興に努め、これまで基幹産業としてのお茶(飲むお茶)が、観光資源や生業景観資産(見るお茶)として、国内外を問わず多くの来訪者が訪れるようになり、茶源郷和東としての知名度も向上し、和東町の町づくりの根幹である生業景観を町民全体の財産として守るために、令和元年7月1日付で和東町景観条例を施行いたしました。

また、体験するお茶として、地域資源の魅力発信に寄与するグリーンスローモビリティも導入し、排ガスゼロによる環境負荷の低減を実現させる周遊観光に努めているところでございます。

日常的に目にする何げない景観が先人による営為の結果であり、その継承を行うことが極めて大切と考えます。人々の暮らしや生業と自然との調和に配慮し、人々が地域に誇りを持てる景観まちづくりを進めるとともに和東町の茶業景観の本質的な価値を把握し、適切な保存と活用による次世代への継承と、それを生かすことにより地域の魅力づくりや地域の活性化を図ることを目的とした持続可能な観光振興を計画して

まいりたいと考えておりますので、ご理解のほうをよろしくお願いいたします。

以上、井上議員からいただきました一般質問の答弁とさせていただきます。

○議長（吉田哲也君）

5番、井上議員。

○5番（井上武津男君）

それでは、2回目の質問を自席からさせていただきます。

今現在、堀町長が残された事業を引き継ぐことで精いっぱいであろうと思われませんが、やはり先に向けて行動することが大事であります。そこで、山林・竹林・農地の放置問題は単に個人の問題として片づけるのではなく、町全体の問題として考えていかなければならない時代になってきていると思われれます。特に、林道整備の遅れは過去より再三に言われてきています。一刻も早く行わなければ、林業の再生のみならず災害の有事や山火事に対応できない状態になり得ます。林道整備問題はどのように考えておられるのか、この点についてまずお聞きしたいと思います。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

今の林業施策についての答弁をさせていただきます。

和東町にはいろいろな森林資源がございます。先日も京都府の林業振興関係と話をすることがありまして、私としましては、今、森林贈与税を活用する中で、湯船の森林公園の周辺にある松林でございますが、これにつきまして、なかなかほかにはなくなっている状況でございます。そういった松林を残していきたい。そして、湯船の杉でございます。和東の杉につきましては、吉野産の杉とほぼ同格の品質を持っていると言われております。こういう人工林につきましても一定の手を入れながら、新たな開発に向けていきたいというように考えております。

併せまして、府道木津信楽線沿いの通行の支障も含めました周辺の整備も京都府と

協議を始めたいと考えておりますので、その点につきましてはご理解をよろしくお願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

5番、井上議員。

○5番（井上武津男君）

次に、耕作放棄地について、年々増加傾向にあり、原因は農家の高齢化により維持できないことによるもの、これらの解決の一つとして、村山議員や岡本議員は再三にわたり述べられているシルバー人材センターの応用こそが公助・共助に当たり、必要になってくると思いますが、これについてはどのように考えていかれますでしょうか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

その点につきまして答弁させていただきます。

確かに、シルバー人材センターの活用というのは重要だと考えています。これにつきましては、過去、堀町長も何度か答弁をされておる内容でございます。ただ、シルバー人材センターにつきましては、その目的が自分の持ち得る技術の伝承というのが最大の目的でございます。労力を集めるというのが目的ではないという点についてはご理解を願いたいと思います。

ただ、そうは言うものの、なかなか労力がないという中では、人材を何とか確保していきたいということで、これにつきましては、未来づくりセンターをはじめ各種多様のところからいろんなデータを集めているところでございます。これを即実現とはなかなかいきませんが、何らかの形で傾斜的に事業を進めていきたい。そして、農地の荒廃については止めていきたい。

また、先ほど答弁させていただきましたとおり、地域計画の作成が令和6年にできます。この地図をしっかりと検討しながら、荒廃している地域をブロックに分けた中

で整備していくということに取り組みたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

○議長（吉田哲也君）

5番、井上議員。

○5番（井上武津男君）

ありがとうございます。

耕作放棄地が一番進んでいるのは湯船地区であり、町道と東信楽線、清水橋から信楽方面へかけて、ここ数年顕著に見られる風景であります。田園風景、茶園風景が無残な状態になっており、このままでは湯船地区、木屋地区が消滅地域になる可能性があると考えます。この両地域への行政からの活発な政策というのはどのように考えておられますでしょうか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

はい、答弁させていただきます。

木屋地区につきましては、現段階では、確かに農家というのがほぼゼロという状況になっております。こちらについての農地の計画、荒廃地の対応、それから湯船地域につきましては、今、申されました町道湯船朝宮線沿い、先日も湯船区長のほうから報告がありましたが、不法投棄がされるというような状況も発生しております。この地区につきましても同様、今後策定する地域計画の中では重要な地区と考えております。そういう地区からまちの中に広げていきたい。そして、全体的な計画に持っていきたいと考えておりますので、ご理解のほうをお願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

5番、井上議員。

○5番（井上武津男君）

それでは次に、美しい村連合は和束の生業景観の維持であり、農家人口の減少により原風景の維持が長らく続けられることは可能であると町長は考えておられるのか、また、そのためには何をすることが特に重要であるのか、この点でもう一度お聞きしたいと思います。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

はい、答弁させていただきます。

美しい村連合につきましては、入会当初からいろいろ生業景観を持って入っております。これにつきましては、当時職員のときに対応させていただいた件でございますけれども、和束町の景観資産というのは、もともと私たちが見て普通の茶畑だと思っていたものを外から見た目で、これが美しいということに気づかせていただきました。こういう点につきましては、どこを残していくのか、どういう具合に残していけばいいのかという点については、今後の計画の中で出てくると思います。

先日も農家とお話しする機会がありまして、今までは山の中の茶畑が荒廃していったというのが、近年、町なかの茶畑が荒廃するということが出てきていると。この点について、町長、何とか取組を考えてほしいというようなお声をいただいております。特にこれは私のほうからお願いとなると思うんですけども、土地所有者の理解でございます。土地については私の財産であるという考え方の中で、その上の耕作面につきましては、耕作をしようと思意のある方に貸していただけるような取組を考えていきたい。

これも先ほどから何回も出ておりますとおり、農地のしっかりとした見直しをかける中で、農地のブロック的な整備を考えておりますので、よろしくお願いたします。

○議長（吉田哲也君）

5番、井上議員。

○5番（井上武津男君）

それでは、三つ目の和東への一過性風景観光だけではなく、いかにリピーターを引き寄せる観光を目指せるかであって、そのために季節を通じて特徴あるイベントを講じる必要があると思われませんが、この点についてまず一つと、それと緑泉コースだけでなくトレッキングコースなどのさらなる充実について少しお聞きしたいと思います。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

ただいまの質問でございます。確かに緑泉コースは和東川に向けての和東茶カフェからの部分しかできておりません。これはできるだけ西和東地区を中心に東和東地区に向けて広げていきたいと考えております。

ただ、観光でここに来ていただいている方につきましては、先日、祝橋の開通式の日には大杉のほうに歩いておられる方なども見受けられました。これも外国人の方でございます。いろいろ観光客の目からどういうところがきれいに見えるのかなども含めて意見聴取をしながら、新たな整備を進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

5番、井上議員。

○5番（井上武津男君）

次に、ガストロノミーツーリズムを実践するために、テラス和豆香で住民の風土食を提供していただけるグループを募集して実行してもらうことは可能であるのか、この点についてもお聞きしたいです。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

ガストロノミーツーリズムにつきましては、和東町が特段やるというようなことでもございませんし、また、それを軸とした整備をやっていくのかということでございます。今、議員もご承知だと思いますが、和食ブームでございます。特に京都府が今、力を入れているのは、和食のブームの中でいろんな郷土料理を行っております。また、平成15年ぐらいからはスローフードということで、地域の食材への注目も出てきております。こういった点を含めて、和東町ではお茶を使った料理をしていきたいということでございます。これが今後できるのであれば、さらに発展させたい。

これについて皆さんもご存じだと思いますけども、以前には恋茶グループというグループがいろんなそういう料理の活動をしていただきましたが、最近、コロナの後、活動が鈍っていると聞いております。この点、新たな活動をしていただける団体等も育成していきたいというように思っております。

併せまして、テラス和豆香でございますが、ここは議員おっしゃるとおりの整備を行ってきたものでございます。申込みがあれば使っていただける条例整備もしておりますので、使いたいという方がおられましたら、現在、和東茶カフェに管理をお願いしておりますので、手を挙げていただければ活動に使っていただけると思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（吉田哲也君）

5番、井上議員。

○5番（井上武津男君）

ありがとうございます。

ぜひ、テラス和豆香を活用していただいて、そして、和東の食文化の活性化を促せるようにしていただきたいと思ひます。

次に、サステイナブルツーリズムにおける観光客のマナー厳守のためのパンフレットの配布、さらに茶園への立入禁止看板などの増設は進んでおられるのか、この点について少しお聞ひしたいです。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

先ほどちょっと申し述べられなかったんですけども、さっきのガストロノミーツーリズムの中で和東の郷協議会では、お茶を食させたニワトリから取った卵の卵御飯が出ております。これにつきましてはかなり好評と聞いております。こういうことがガストロノミーツーリズムにつながっていくものだと考えておりますので、よろしくご理解のほうをお願いしたいと思います。

併せまして、今のサステイナブルツーリズムの関係でございますが、こちらにつきましては、持続可能なまちづくりというのは当初から申しているところでございます。それに伴います日本遺産への加盟、美しい村連合への加盟、そして一番重要なのは、一番最初に加盟しました京都府景観資産登録の認定でございます。これにつきましては、今のこの景観を残すということが目的でございます。この景観を残すことで持続可能なまちづくりを進めてまいりたいというように考えておりますので、ご理解のほうをお願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

5番、井上議員。

○5番（井上武津男君）

ありがとうございます。

やはり和東のきれいな景観を先の代まで残すということがかなり大事なことであります。ですから、今の答弁のように、やはり10年先、20年先もこのような風景を残していただきたいと思っております。

これで私の質問は終わります。

○議長（吉田哲也君）

会議の途中ですが、ただいまから午前10時45分まで休憩いたします。

休憩（午前10時33分～午前10時45分）

○議長（吉田哲也君）

休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続けます。

高山豊彦議員。

○4番（高山豊彦君）

皆様、こんにちは。公明党の高山豊彦です。ただいま議長のお許しをいただきましたので、通告書に基づきまして私のほうから一般質問をさせていただきます。

この12月は馬場町長として初めてとなる次年度の予算編成の時期でもあります。そこで、現在進められている第5次総合計画の「活力を生み出す商工業の振興について」、「環境と共生した生活スタイルの確立について」質問をさせていただきます。

まず、1点目の活力を生み出す商工業の振興についてでございますが、第5次総合計画の基本構想に今後の地域構造の基本的な考え方として、鷲峰山トンネルから府道木津信楽線までの間を「沿道型サービスエリア」とされているが、これまでの取組と今後の計画は。

2点目に、現在、観光や住民の交流拠点となっている「和東茶カフェ」や「交流ステーション（和東の郷）」の運営状況は。また、今後どのように活用されるのか。

3点目に、地域商店の減少に伴う買い物困難者等への今後の対策は。

大きな2点目です。環境と共生した生活スタイルの確立についてでございますが、1点目は、鷲峰山トンネル開通に伴い、通行量の減少が予想される宇治木屋線犬打峠周辺へのごみの不法投棄防止対策の考えは、2点目に、本町の玄関口となる国道163号線から府道木津信楽線瓶原大橋間の道路脇のごみ対策は、以上についてご答弁をお願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

それでは、高山議員からいただきました一般質問、活力を生み出す商工業の振興について答弁をさせていただきます。

議員もご承知のとおり、平成17年度から取り組んでまいりました雇用促進事業が一定の成果を上げたものと私自身判断をしています。その理由としましては、平成20年6月、和東茶カフェ開設以来、その周辺には4軒の出店があり、どの店においても健全な経営が行われているほか、雇用促進事業が実施してきました各種講座受講者の方々のスキルも向上し、計画から行動となってきたことに伴って、今期の雇用促進事業内容につきましては、今までは講座開設が主でしたが、伴走型支援へと移行し、次のステージにステップアップするタイミングだと判断をするからでございます。こういったことから、今回の補正において和東町第5次総合計画に掲げるオープンエアミュージアム構想の具現化に取り組む予算を計上させていただきました。

私が選挙でも訴えてきました地域商業の再生、来年完成する鷲峰山トンネルがもたらす効果は計り知れないものであると全ての住民が期待するところでもあり、企業誘致なども期待される方もおられますが、まずは町内の商工業者が元気になってもらえる施策を講じることが必要不可欠ではないかと考えております。また、取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解とご支援のほうを賜りますようお願い申し上げます。

(2) 現在、観光や住民の交流拠点となっている「和東茶カフェ」や「交流ステーション」の運営状況はについてでございます。今後どのように活用されるのかについては、運営状況は担当課長のほうから答弁させますが、私のほうからは、和東茶カフェ、交流ステーションを今後どのように活用するかにつきまして答弁をさせていただきます。

和東茶カフェは、平成20年6月にグリーンティ和東1階のエントランスホールで和東町雇用促進協議会が運営事務局となり、和東茶に特化した直売所として開設をしました。その後、直売所会員による協議会の運営に切り替わり、平成29年12月には

民間事業者の法人運営となりました現在のえん－TRANCEわづかでございます。
コロナ禍により一時期運営状況が厳しい時期もありましたが、現在は売上げも順調に
推移し、和東町のランドマークとして機能を果たすだけでなく、地域の雇用創出にも
寄与しています。

交流ステーション和東の郷は、地域の農産物や工芸品を通じて地域の方々が交流す
るとともに、地域外から訪れた方々との交流を促進する場として、地域住民を中心と
した協議会が立ち上げられ、約80名の方が参加され、和東の郷づくり協議会として
運営されています。これも雇用促進協議会の講座を通じて夢を現実にし、それを運営
に動かされた賜物と考えています。

いずれの施設も地域住民の自己実現によるまちづくりへの参画と地域の特産物の販
売を通じた都市農村交流の拠点施設となっており、官民が連携して取り組むソーシャ
ルビジネスの事例としても地域外からも注目されています。

来年には鷲峰山トンネルが開通し、大都市圏からのアクセスもよくなり、さらに2
025年には大阪万博も開催されますので、グリーンティ和東周辺施設を基盤として、
さらなる誘客を図っていきたいと考えております。

次に、環境と共生した生活スタイルの確立について答弁いたします。

議員ご質問は、特に不法投棄問題をまず懸念するところかと考察します。特に人目
がつきにくいところでの不法投棄は後を絶たず、先日も湯船地内で建材廃材の不法投
棄があったとの報告も受けています。この点につきましては、地権者のご理解と協力
を求め、容赦なく警察との連携を図り、摘発していく考えをしています。

先日、別所地内での摘発は土地所有者に依頼し、被害届の提出、捜査への協力を求
めた結果、摘発することができました。また、防止策などにつきましては担当課長の
ほうから答弁させますので、ご理解のほうをお願いいたします。

以上、高山議員からいただきました一般質問の答弁とさせていただきます。

なお、事務的内容につきましては担当課長のほうから答弁させますので、よろしく

お願いします。

○議長（吉田哲也君）

地域力推進課長。

○地域力推進課長（原田敏明君）

皆様、おはようございます。高山議員の一般質問にお答えさせていただきます。

1番、活力を生み出す商工業の振興について、（1）第5次総合計画の基本構想に今後の地域構造の基本的な考え方として、鷲峰山トンネルから府道木津信楽線までの間を「沿道型サービスエリア」とされているが、これまでの取組と今後の計画はにつきまして、私のほうから、これまでの取組についてお答えさせていただきます。

本町においては、これまでの生業景観が評価され、京都府景観資産登録や美しい村連合への加盟、日本遺産の認定やお茶の京都博などでの和束町の茶畑景観が各種メディアで紹介され観光者が増加していることによりまして、観光案内所の設置やサテライトオフィスの開設、また、観光交流拠点エリアでの和束茶カフェや唯一の公共宿泊施設である京都和束荘のリニューアル、和束の郷交流ステーションのオープンなど、ハード面の整備や、また茶源郷まつりの開催、農業体験、農家民泊、修学旅行生の受け入れ、マウンテンバイクの世界マスターズゲームズの誘致や併せてインバウンド観光など、ソフト事業により着実に実績を残していることから、和束町を訪れる観光来訪者が年々増加しているところでございます。

基幹産業であるお茶を中心とした観光産業に大きな経済効果が見られており、また、鎌倉時代から続く800年の茶業について、近畿経済産業局から和束茶の地域ブランドとして指定を受け、茶源郷和束としての知名度の向上により、特産物であるお茶の地域ブランド化も進みつつあるところでございます。

今後も基幹産業であるお茶の生業や営み、それによって作り上げられた茶畑景観を中心に観光振興を図り、今年度より整備しております石寺景観前に展望施設を設置することにより、今後の周遊観光ルートのポイントとして重要な役割を果たしていくも

のと考えております。

また、滞在型や交流型の観光を推進し、観光事業と基幹産業が文化的な景観と連携したまちづくりを進めてまいりたいと考えているところでございますが、やはり受入れの体制が不十分であるということは認識しているところでございます。しかしながら、鷺峰山トンネル開通を契機に、人の流れや交通網の変化によって新しい好循環が期待されるところでございます。茶源郷和東として高付加価値を高めていく施策を講じまして、新たな茶源郷和東を誕生させるべく関係機関との連携を強化し、議論を重ねていくべきところだというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上、高山議員の答弁とさせていただきます。

○議長（吉田哲也君）

農村振興課長。

○農村振興課長（松井幸則君）

皆さん、改めましておはようございます。

それでは、私のほうから、高山議員の大きな1、（1）第5次総合計画の基本構想に今後の地域構造の基本的な考え方として、鷺峰山トンネルから府道木津信楽線までの間を「沿道型サービスエリア」とされているが、これまでの取組と今後の計画はについてお答えさせていただきます。

先ほど地域力推進課長から、これまでの取組について答弁させていただきましたので、私からは、今後の計画について説明させていただきます。

来年には鷺峰山トンネルが開通し、大都市圏からのアクセスもよくなります。さらに2025年には大阪万博も開催されますので、グリーンティ和東周辺施設を基盤として、さらなる誘客を図るためにこれまでも計画を進めてまいりました。第5次総合計画にも示すところのオープンエアミュージアムについては漠然とした言葉であるため、それを今回もう少し具体的なものとするため、現在、基本計画の仕様書を作成しているところです。

また、12月補正予算で茶源郷和東、オープンエアミュージアムの基本構想設計委託料を計上させていただきますので、ご承認いただきますようよろしくお願いいたします。

続きまして、(2) 現在、観光や住民の交流拠点となっている「和東茶カフェ」や「交流ステーション(和東の郷)」の運営状況は、また、今後どのように活用されるのかについてお答えさせていただきます。

先ほど町長から和東茶カフェや交流ステーション和東の郷の今後の活用について答弁させていただきましたので、私のほうからは、運用状況について説明させていただきます。

和東茶カフェは、和東茶に特化した直売所として、現在、民間事業者が運営されております。現在会員数は地域内外の方43軒で構成されております。地域外の方につきましては、商品に必ず和東茶もしくは和東町のPRを使用させていただいております。和東茶カフェの運営は、会員の会費、商品の委託販売手数料、カフェの直接販売品の売上の収入によって成り立っております。過去3年間の実績は、令和3年度約3,025万7,000円、令和4年度約4,418万円、令和5年度11月末現在で約4,947万9,000円となっており、今年度約5,500万円の売上げを見込まれております。

次に、交流ステーションは地元の野菜や工芸品の販売、住民や観光客が交流・情報交換できる場、そして住民の方が生き生きと過ごしていただくことができる場となることを目的とされ、現在、和東の郷協議会が運営されております。現在会員数は84名で構成されております。交流ステーションの運営は会員の会費、商品の委託販売手数料、直接販売品の売上の収入によって成り立っております。過去3年間の実績は、令和3年6月から12月で約493万9,000円、令和4年1月から12月で約1,426万7,000円、令和5年1月から11月末現在約1,700万円、今年度約1,800万円の売上げを見込まれております。

続きまして、（３）地域商店の減少に伴う買い物困難者への対策。

本町では、商工会と連携し、移動販売スーパーよろずや茶太郎を週２回運行しております。運行エリアは町内のほぼ全域で、利用客数は１回の運行で約８０名程度利用されております。利用されている方の大半が移動手段の限られる高齢者だと報告を受けております。販売されている商品といたしましては、食料品・生活用品等の必需品となっております。

また、今後につきましては、より利用しやすい移動販売にするための改善策を商工会と検討し、高齢者の方にとって暮らしやすいまちづくりに取り組んでいきたいと考えております。

続きまして、大きな２、（１）鷲峰山トンネル開通に伴い、通行量の減少が予想される宇治木屋線犬打峠周辺へのごみの不法投棄防止対策の考えはについて、農村振興課では、会計年度任用職員を採用し、週３回、不法投棄パトロールをしていただいております。ごみパトロールは町内全域を回るルートとなっております。トンネルが完成して以降、不法投棄等が増加する前に犬打峠周辺もパトロールする予定をしております。また、今後は具体的な防止対策も検討し、町の景観を維持していけるようにしたいと考えております。

続きまして、（２）本町の玄関口となる国道１６３号線から府道木津信楽線瓶原大橋間の道路脇のごみ対策は、こちらにつきましては府道沿線にありますので、山城南土木事務所の管轄となっております。そのため町で何かすることはできませんが、町といたしましても、玄関口とも言える井平尾交差点から瓶原大橋の間にごみが廃棄されていることは町のイメージへの悪影響も懸念されますので、府道を管理されている山城南土木事務所には定期的にごみ清掃の要望をさせていただいております。

以上、高山議員からの一般質問に対する答弁とさせていただきます。よろしく願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

4番、高山議員。

○4番（高山豊彦君）

それでは、再質問をさせていただきたいと思います。ちょっと順番を変えさせていただいてよろしいですか。

環境と共生した生活スタイルの確立についてのほうをさきに質問させていただきますが、今も鷲峰山トンネル開通に伴ってパトロールをしていきたいということでございました。先ほど町長の答弁にもありましたが、これまで町内で何か所かで不法投棄があったということでございます。不法投棄があった場合の処理費の負担は誰がされるのかお願いします。

○議長（吉田哲也君）

農村振興課長。

○農村振興課長（松井幸則君）

はい、お答えさせていただきます。

不法投棄は処理自体はそれぞれの地権者の方の負担となっております。

以上です。

○議長（吉田哲也君）

4番、高山議員。

○4番（高山豊彦君）

分かりました。ということは、沿道は民間の土地がほとんどだと思うんですが、そうしますと、今の犬打峠付近ですね、府道宇治木屋線周辺も含めてですが、万が一、不法投棄があると住民の方が負担をしないといけないということになるわけですね。ですから、これは非常にこれから心配されることだと思うんです。

先日の湯船区の関係でもございましたが、防犯カメラの設置とかいうご要望もございました。その際、コミュニティ補助を活用して何とかしてもらえないかということで、それは地域からできることなんですよね。ただ、今回それぞれの沿道の地権者と

いうのはやっぱり違いますから、その地域のコミュニティ補助を使うことはできないだろうというふうに思います。そのあたりで町長、町のほうでそういった防犯カメラ等を考えられないのかどうか。このことによって、町負担も軽減もされるでしょうし、住民のそういった負担軽減につながっていくというふうに思いますし、なかなか防犯カメラの設置場所も難しいかも分かりませんが、どういった車両が通行したのか、町外へ出ていくときには空っぽだったら、やはりそういったことも警察のほうと協力しながら対策も打てるのかなというふうにと思いますが、そのあたりの町長のお考えはいかがですか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

はい、高山議員の質問にお答えさせていただきます。

基本的に町が設置するというよりも、行政が設置する防犯カメラにつきましては目的が必要となります。例えば、今、防犯カメラがたくさんついてるという中に、どここの道路という話につきましては、スピード違反、それから交通の動態を確認するといった形で道路管理者が設置しているもの、また、各個人が自分の財産を守るために設置しているもの、それから商店街のように商店として防犯カメラを設置し通りを管理しているもの、いろいろ目的がございます。

例えば、うちで不法投棄を監視するために防犯カメラをつけるということになりますと、何かの事象が起こった後に、それを目的に一時的につけるというのは可能と思うんですけども、常時つけておいてそれで監視するということにつきましては、個人のプライバシーの問題とかもありますので、それをすることはなかなか難しいというのが現段階のいろんな法律の中で整備されているところでございます。

ただ、皆さんもご存じのとおり、いろんなテレビ番組を見ていますと、防犯カメラのいろんな操作をしたりとか、それからニュース事象を聞いていますと、どこどこの

防犯カメラに映っていたとかいうようなことがありますけども、これは警察が捜査令状を持って、その上で個人に防犯カメラを見せていただくと。聞くところによりますと、個人が防犯カメラの再生を一緒に見られないというような状況があるみたいでございませう。ここは私も聞いた上の話なんで何とも言えませんが、そういった捜査とか目的がなければ防犯カメラを常時回して撮るといふのは難しいところがありますので、先ほど担当課長が答えましたように、パトロールを強化することでごみが一回捨てられたという事象があれば、そこに防犯カメラ的なものを設置しながら一時的に管理監視をするとかいうような方法が今一番ベターかなというふうに考えますので、この点につきましては、今後、警察も含めて、それから条例整備等を含めながらできることをやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○議長（吉田哲也君）

4番、高山議員。

○4番（高山豊彦君）

ありがとうございました。

防犯カメラについてはなかなか難しいということでご答弁でございました。私も以前、バス事業におりましたから、バスのドライブレコーダーも同じような効果があるんですが、その関係で、確かに個人情報保護審査会に諮って、その情報をどう出していくのか、裁判所・警察の捜査状があれば出せるとか、いろんな条件がございました。そういう意味でもなかなか難しいだろうなというふうに思いますけども、やはりここにつきましては、カメラがなかなか難しいようであればやはりパトロールの頻度を上げてもらうなり、また、看板は設置できると思うんですよね。湯船の隧道の間から原山へ抜けるところあたりとか、何か所か町内でも防犯カメラ作動中の看板が立っているかと思うんです。ああいったものもあるだけでも大分違うのかなというふうに思いますから、そのあたりはできる範囲の中で検討いただきたいと思いますので、町長、いかがですかね。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

はい、答弁させていただきます。

今の件でございます。啓発的な看板の設置につきましては担当課のほうでいろいろな場所も見極めながら立てられるところ、また立てていいところに立てていきたい。

ただ、私の私見も入りますけども、美しい村、そして景観を保持するというところで和東町のまちづくりに取り組んでおります。そういう看板というのは、どちらかというとあまりいい看板ではないということもございますので、観光客並びにいろいろ出入りされる方々についてのモラルをもう少し上げられるような啓発活動も取り組んでいきたいというように思いますので、よろしくをお願いします。

○議長（吉田哲也君）

4番、高山議員。

○4番（高山豊彦君）

景観の部分からいいますとね、やはりその看板もそうなんですが、ごみを捨ててあるというのが一番見苦しい問題ですから、町長、そこは考えてください。ぜひ、よろしく願いいたします。

次にですね、活力を生み出す商工業の振興についてでございます。

先ほどそれぞれ和東茶カフェ、また和東の郷の状況についてご答弁をいただいたわけですが、和東の郷の運営につきましては、私、令和3年6月議会で一般質問をさせていただきました。その際、運営につきましては「出店者による協議会で運営していただく」ということで副町長のほうから答弁をいただいたわけですが、現在、アルバイトの方が数名おられると思うんですが、その方々は協議会が雇用されているのか、どうなのか、雇用主は誰なのか、それとアルバイトを雇用された経緯について説明をお願いしたいと思いますが、町長、いかがですか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

今の件に答弁させていただきます。

和東の郷の答弁の前に和東茶カフェの経過からの話になりますので、ご理解のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

和東茶カフェにつきましては、平成20年6月に開店をいたしました。これも今の協議会と同様、住民の方々が集まってスタートさせたということでございます。このときも和東茶カフェをここにつくろうと言い出して、そこに物をつくったんですけども、そしたら誰がここの店番をするんやというような話がありました。このときも和東町のほうが起業立ち上げということでご協力をさせていただいた経緯がございます。このときは1名の方を約1年程度雇用させていただいて、和東茶カフェの管理運営をお願いしたという経過がございます。

これと同様、今回の施設につきましても、目的は地域の交流と地域特産物の販売ということでお願いしているところでございます。地域の交流と特産物の販売につきましては、立ち上げていただいた協議会のほうが取り組んでいただいているところでございまして、先ほど担当課長が答えましたような売上げが今あるということです。

これと併せまして、雇用についてでございます。これにつきましては、地域おこし協力隊を1名配置しております。これは和東町の地域特産物の販売、それから交流、そして生産というところに力を入れていただくために協力隊を1名、これにつきましては全額和東町が負担し、そこを主勤務場所ということで、あくまで協力隊ですので、主勤務場所ということで勤務をしながら管理運営に携わっております。

併せまして、約220万円の人件費を和東町のほうから出してしております。これにつきましては、郷運営のためにうちのほうから出しているものでございます。これは和東茶カフェのときと同様、一定の期間、郷が順調に動くように期間を見て運営費を出

しているところでございます。繁忙な時期につきましては人手が足りないというような話も協議会のほうから聞いたりしとるんですけども、もともとの趣旨としましては、立ち上げていただいた会員の方々に運営していただくと。ただ、場所につきましては、和束町が準備した公共施設でございますので、そこで目的を達成するために動いていただくということになります。その分の応分な負担としまして、現在、地域おこし協力隊1人、それと会計年度任用職員約2名分の人件費を捻出しております。

○議長（吉田哲也君）

4番、高山議員。

○4番（高山豊彦君）

ありがとうございます。

先ほども申しました令和3年6月議会の際に一般質問で、このときは使用料の関係で質問させていただきました。このときに私のほうから、軌道に乗るまでは、やはりそういった使用料を負担するのが協議会として大変難しいだろうと。その軌道に乗るまでは、町内、または活性化センターなり、そういったところがノウハウを伝えるなりして、十分な経営ができるようにフォローすべきであるというような要望もさせていただいた中で、町長のほうから、会計年度任用職員を張り付けたいというようなご答弁をいただいておりますので、そのことで地域おこし協力隊の1名なのかなというふうに思うんです。

今もございましたが、町長のほうから答弁をいただきました一定期間ということで、年間220万円の支援ということで今されている。その中で、レジとか店の運営を担当されている方を雇用されていると思うんですが、先日、スタッフの方といろいろお話をさせていただきました。店を運営していくには1日4名程度の人員が必要だというお話なんですね。

その中で、この220万円につきましても一定期間ということですから、今お聞きした中では来年度までは何とかなるということで、それ以降は打ち切りになるという

ようなお話でございました。そこで非常に不安を感じておられる。この中でですね、この売上げだけではなかなか回せないというような状況で心配をされて、役員の方が今年で一応退任しようということで、協議会として今後の運営は難しいという判断をされているようでございます。これにつきまして、和東の郷ができた経緯、また目的ですね、これも令和3年のときに確認をさせていただいているんですが、もう一度お聞きしたいなというふうに思います。

また、当初の方針ですね、この協議会の中で運営していただくという、そういったことが十分伝わってないのではないかな。だから、人件費が足りないということになってくるのかなというふうに思いますが、このあたり、これまで協議会とどのように協議をされたのか、そういった町の思いを伝えていかれたのか、そのあたり、町長、お願いできますか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

結論から申しますと、基本的に和東の郷につきましては、運営は団体に委託をするということでお願いをしております。この中で運営に係る経費は出させていただきたいということになっております。

ただ、先ほども言いましたように、和東茶カフェの関係もございますので、当時からなかなか難しいというのは施設の管理費等々の部分があると思います。その点につきましては条例化させていただいて、その約半分を減免をするという形で負担軽減をしているところでございます。

今の郷づくり協議会のもともとの設立趣旨につきましては、特産物の生産・販売と生産者の交流、それから来訪される方との都市農村交流というのが目的でございます。その趣旨で設立されております。その方々にこの施設を運営していただくということで、和東茶カフェ同様の形を最終的に取りたいということは伝えております。

この間、いろんな諸問題を私も直接聞いたり、それから間接的に聞いたりしております。その中でなかなか経営が難しい。ただ、この前も団体の今の現状を会長とも話をしとったんですけども、一定の目標を持っておられると。その目標まで達成すると何とか独立採算できるというようなことも伝わってきています。私としては、どれだけ時間がかかるんだということについては、一定きちとした形でこちらにも提示してほしいと。現段階で過去のことをこんなんやったからしんどいというんじゃなくて、今後どのような取組をするのか、その取組によってどのような支援してほしいのかということをしつかりと伝えてもらえれば、こちらとしましてもそれに対して妥当であれば、また目的であれば支援をしていける方策を考えていくというような考えを回答しております。

現段階では約3年間何とか応援していきたいというような考え方の中では、確かに今言われるように、令和6年度をもって支援をどうするかということになりますが、これにつきましては、協議会が今後どのような形を取られるのか、この点についてはまだ何の回答もいただいておりませんので、それを見ながら令和7年、8年に向けての検討を加えていきたいと思っておりますので、現段階では、先ほど議員がおっしゃいましたとおり、設立の趣旨と、それから設立された方々及びそこに入っている会員の方々の考えの下に一定まとめていただいて、町の担当課のほうにそういうご相談をいただければ、それに向けて政策的な判断は私のほうでさせていただきたいと思っておりますので、ご理解のほうをお願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

4番、高山議員。

○4番（高山豊彦君）

分かりました。

カフェは何か今いってますから、特に今後の和東の郷の運営につきましては、今、町長がおっしゃいましたように、目標も含めて、協議会が今後の方針をどのようにし

ていくのかということを示すことによって、そこは町としても検討していきたいということかなというふうに思います。そこは大事なことだろうなと思うんですね。

ただ、先日お話を聞いてますと、会員が84名おられるということですが、総会に来られなくて、意見をまとめるのがなかなか難しいということもありまして、そういった中で、協議会としても会員をまとめるのに苦労されているなというようなことも感じたんです。ですから、そのあたりは再度また担当課が会員のほうにそうした働きかけもお願いできたらなというふうに思うんです。役員だけではそこまでなかなか手が回らないというところもあるでしょうから、そういった部分での何らかの支援が必要かなというふうに思いますので、お願いします。

それもまたお話を聞いてますと、今現在、高齢者の方がシニアカーで毎日のように買い物に来られると。ここに来るのが楽しみやおっしゃっておられるということなんでしょうね。和東の郷のできた経過の中で高齢者の方の生きがい、自家栽培したものを売るというのもそうでしょうし、買い物に行ってそこで交流をする楽しみというものも一つあったのではないかなというふうに思うんですね。ですから、そういった高齢者の方の楽しみを潰さないように、これからもずっと継続して、高齢者の方が元気で外出できるような場所として守っていく必要があるのかなというふうに思うんです。認知症予防とか健康維持という観点からも高齢者の外出は重要なことですから、そういった部分での町の働きかけというのも大事なかなというふうに思いますので、和東の郷の維持につきましましてはこれからもご支援をお願いしたいなというふうに思うわけです。

ただ、今も申しました協議会の現状からしてなかなか今すぐに方針というものも出ないだろうと思いますし、これは協議会のほうで考えられることかも分かりませんが、運営方法について、当初は協議会の中で運営するというところでスタートしましたが、現状は今の状況ですから、やはり町としてもそのあたりの運営方法について再度検討していただいて、協議会のほうと再協議をお願いできたらなというふうに思います。

この総計の中の113ページに、「流通・観光・商業サービス等の需要発生を町内全域で受入れを可能とする環境を整備するためにプロジェクトチームを創設します」とあるんですね。新たな事業創出に向けての戦略的に取り組むためにプロジェクトチームを創設しますということで、地域住民また事業者、関係団体、さらに近隣市町村とも連携する事業推進体制を構築し、トンネル開通までの環境整備を目指し、スピード感を持って取り組みますということになってます。ですから、こういったプロジェクトチームがあるのであれば、そういったところも含めて、運動公園を含めて沿道サービスエリア全体としてあの辺一帯を充実させるということかなというふうに思いますし、先ほどご答弁にもありましたオープンエアミュージアムについても、そういった周辺を整備していこうということになるのかなと思います。その一つとして今の和東の郷をぜひ継続するために協議会と、また町としての運営方針ですね、そういったものも示していただけたらなというふうにと思いますが、町長のほうはいかがですか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

はい、答弁させていただきます。

何回も言いますが、和東の郷につきましてはその目的が一番のことです。地域住民がそこで集う、そして自分たちが生産したものをそこで自慢をし合って、それを販売していくというのが目的で、先ほど言われてましたように、来訪者との交流も大事ですし、生産者同士の交流も大事だと思っております。先ほど担当課長が答弁しましたように、今回補正で上げさせていただきましたオープンエアミュージアムの関係の予算でございます。これにつきましては、そういうところをもう一度しっかりと構築し直そうということが目的で立ち上げたものでございます。この予算において今後行いたいことは特に和東茶カフェ周辺を中心とした新たな再構築、これにつきましては、今まで雇用促進協議会が行ってきた事業をもう一度しっかりと見直す中で、

これを次のステージにのし上げることが目的でございます。この中には和東の郷も含まれておりますし、逆に言えば、町としましては一番中心的な施設でございますので、この施設に対しての今後の在り方等についてもこの中でも検討していきたいというようには考えております。

ただ、やっぱり一番大事なのは、和東の郷協議会を立ち上げていただいたときの設立趣旨ですね、自分たちが集い、自分たちが交流し、自分たちがこれを育てていくということでございます。ここの点についてはもう一度会員と団体のほうでしっかりと話をしてほしいということは先日も伝えておりますので、この点については期待したい。

ただ、高山議員がおっしゃいますように、先日の協議でも年齢構成が高齢化してきているということで、委任状のほうが多かったというようなことも聞いております。このあたりも含めて、こちらから手を入れるところは手を入れながら、令和5年から6年にかけて、この点については取り組みたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

4番、高山議員。

○4番（高山豊彦君）

ありがとうございます。

総計の80ページに高齢化社会に対応した商業サービスを支援強化していきまうというようなことになってます。先ほども申しましたように、やっぱり高齢者にとってそういったところに行き物に行く。そのことによって交流を深め、またそこで元気を維持していただくということになるかと思ひます。

私たちが子どもの頃というのは、役場周辺に行きますといろんなものが全てそこでそろった時代でございますが、今、残念ながらそういった商店が軒並み廃業されている状況でございますし、そういった場所というのがなかなかない状況なんですね。で

すから、よろずや茶太郎のご報告もございましたが、やはり高齢者の方は実際に買い物はヘルパーさんをお願いをすれば、また近所の人をお願いすれば買ってきていただけるとかということもあるんですが、自分の目で見て購入したいという方も多くおられるわけですから、そういった場所の提供というのはこれから重要だろうなというふうに思いますので、ぜひ、そこは検討をお願いしたいと思います。

第5次総合計画に将来像として示されている「和の郷 知の郷 茶源郷和東」、この実現に向けて、持続可能な和東町のまちづくりが進むことを期待いたしまして、質問を終わります。

以上です。ありがとうございました。

○議長（吉田哲也君）

高山豊彦議員の一般質問を終わります。

会議の途中ですが、ただいまから午後1時30分まで休憩いたします。

休憩（午前11時32分～午後1時30分）

○議長（吉田哲也君）

休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続けます。

山本達也議員。

○3番（山本達也君）

山本でございます。通告書に基づきまして質問をさせていただきます。

まず、第1番に、鷲峰山トンネル開通に向けて、その後、増えるであろう観光客を収容して外貨を稼ぐ、そういった施設の整備など何らかの具体的な計画が現在あるのかと。

これにつきましては、先ほど高山議員のほうからの質問で調査ですか、その予算を計上しているというお話が出ましたので、最初はあるかないかということを知りたいんですが、ある場合として、具体的な計画の中身をお聞かせいただきたいと思っております。

2番、B & G 海洋センターの改修と利用者を増やす取組について、現在、役場で運営・管理を行っている聞いておりますが、民間等のほかの団体に委託することで、より多くの集客に向けて柔軟な運営ができると思っておりますが、その改修と民間委託についてどのように考えておられるかということをお願いします。

3番目、町の税収を大きく増やす取組について現在実行していること、それと今後実行しようとしていること、それは何かということをお伺いしたいと思います。

4番、鷺峰山トンネル開通後の交通網について、これは今後5年後の交通網までも見据えた今現在の考え方、また、やろうとしていること、それは何かということをお伺いしたいと思います。

5番目、3町村が連合しての教育委員会について、今現在のメリットとデメリット、これをお聞かせ願いたいと思います。

以上です。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

それでは、山本議員からいただきました一般質問について答弁させていただきます。

鷺峰山トンネル開通に向けて、その後増えるであろう観光客を収容し、外貨を稼ぐ施設の整備など、何らかの具体的な計画が現在あるのかについて答弁させていただきます。

先ほど高山議員にも答弁させていただきましたが、来年には鷺峰山トンネルが開通し、大都市圏からのアクセスもよくなります。さらに、2025年には大阪万博も開催されますので、グリーンティ和束周辺施設を基盤として、関係各所と連携を取りながら、民間のノウハウも活用しながら今後の計画を検討していきたいと考えております。

併せて、この計画の中で地元商工業者が活躍できる場づくりについても取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

内容につきましては、先ほど来、答弁をしておりますとおり、和東茶カフェ、それから和東の郷周辺の施設等がございます。この辺を中心に新たな交流ステーションの場の広がりといったものに取り組んでいくということがメインになると思います。先ほども申しましたけども、そのために今回補正を計上させていただきまして、これで町内の委員などを募りながら、外部からの意見も聞きながら新たな計画をもう一度練り直したいというところでございます。

これにつきましては、現在どのようになるかというのはまだまだ想定はつかない。それと令和7年に新名神高速道路が開通します。これを見据えておかないと、ただ単に宇治木屋のトンネルが開いただけというのでは増えるということも想定しかねますので、そのあたりも含めた計画を5年、6年かけてしっかりと取り組んでいきたいというように考えておりますので、ご理解のほうをよろしくお願いいたします。

次に、2番のB & G海洋センターの改修について関係でございます。

利用者を増やす取組について、現在、役場で管理運営を行っているが、民間等の団体に委託することで多くの集客に向けて柔軟な運営ができると思うが、改修と民間委託についてどのように考えるかについて答弁させていただきます。

経緯から申しますと、和東B & G海洋センターは、現在の日本財団が施設を建設され、昭和59年5月に完成し現在に至っています。京都府内では、宮津、南丹、京丹波、和東町に海洋センターがあり、社会教育施設として運営がされております。和東町におきましては、相楽東部広域連合が設立された際に教育委員会から総務課に所管を変えた施設でもあります。

B & G海洋センターが建設された昭和59年頃は中学生が300人を超え、室内体育施設として体育の授業やクラブ活動、和東中学校の第2体育館というような形も含めて、また、プール施設については、当時は中学校の体育授業の必須であったことから、6月後半から9月中旬まで利用されてきました。しかしながら、学習指導要領等の改正によりプールの授業が廃止され、また少子化の影響による利用者の減少があり、

年間利用はピーク時の約10分の1となっている状況でございます。また、利用者の減少に伴い、専任職員につきましても現在配置できていない状況です。

施設完成から約40年が経過し、応急的な修理は行ってきましたが、利用者が少ない状況ではB&G財団からの改修補助も期待できません。また、国等の補助金も該当しないことから、町の単独費用で賄わなければなりませんので、年次計画を立てて改修していきたいと考えており、来年度はアリーナ及び2階トレーニングルームの照明のLED化を予算計上したいと予定をしているところでございます。以降、備品更新、屋根の改修、プール施設設備の改修など大規模な改修が必要となりますので、財源の確保に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解のほうをよろしくお願いいたします。

次に、民間委託についてであります。京都府内のB&G海洋センターでも宮津市が地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理制度により管理をされております。また、本町も山の家や観光案内所の管理については指定管理者制度を活用しておりますが、現在、和束B&G海洋センター条例では、指定管理に係る条文が整備されておられませんので、事業効果を研究し検討していきたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

次に、3番、町の税収を大きく増やす取組について実行していること、今後実行しようとしていることは何かについて答弁させていただきます。

和束町の基幹産業は茶業であることは言うまでもなく、茶業振興に重点を置いた施策を講じてきました。お茶の直売を中心に、農産物の6次化に取り組むため雇用促進事業などを行ってきました。第1次産業の6次化については入り口より出口のほうが課題で、次の課題としては、地元商工業者を軸とした出口の再生に取り組んでまいりたいと考えています。また、商工観光事業者の誘致なども併せて模索していく考えを持っています。京都府などとも連携を図りながら進めていきたいと協議を進めているところでございます。

次に、4番、鷺峰山トンネル開通後の交通網について、今後5年後の交通網までも見据えた今現在の考えはについて答弁させていただきます。

鷺峰山トンネル開通に伴い、今までは何とか和東まで路線の延長をお願いしますといった発想から、和東を回って加茂や京田辺、宇治へといった発言・発想ができるようになります。新たな路線開拓はもとより、周遊するルート展開を模索しながら、近隣市町村との協議ができるように取り組みたいと考えています。

さて、本町の現在の状況を見ますと、基幹的な公共交通は言うまでもなく、奈良交通和東木津線の路線バスですが、古くは省営バスが加茂駅から本町を經由し、滋賀県の信楽町まで運行しておりました。その後は国鉄バス、西日本JRバスと名を変え引き継がれましたが、経営悪化に伴い路線廃止の申出があり、ほかのバス会社の引き受け手もなく、平成14年10月に国と府の支援を受け、和東町が赤字を補填することを前提に、奈良交通が運行を引き継いだという経過がございます。

引き継がれた当初、住民の強い要望を受けて木津駅への乗入れが実現し、湯船小杉までを運行していましたが、平成22年10月には木津・加茂間が短縮され、今年4月にはコロナ禍で利用者がさらに落ち込み、原山・小杉間の路線再編という痛みを伴う決断を迫られたところです。

今回の路線再編によって生じる交通空白地を埋め、またバス停と離れた集落を結ぶことにより路線バスの利用環境を改善するため、AIを活用し、予約制ではありますが、できる限り複数の方が乗り合って運行するデマンド交通W a z C a rの実証運行を昨年9月に開始したところです。このように、本町では、奈良交通の路線バスとW a z C a rの組合せによって加茂への需要をできる限り太くし、公共交通全体として維持確保していくということが現在の基本的な考えであります。

今後、鷺峰山トンネルが開通しますと新たな人流が生まれることが予想されます。しかしながら、本町の人口が2倍に増えるわけでもなく、需要の分散が生じると考えられ、公共交通においては大変難しい問題となってまいります。加えて、バス業界で

は、運転手不足に伴う路線廃止や減便などの報道が近隣から頻繁に聞こえてくる中で、路線バスを新設することはよほどの需要がない限り大変厳しい情勢となっております。

こういった状況を考えますと、住民の協力を得て取り組む新たな公共交通は和東町においても一つの解決策になり得ると考えておりますが、先日開催しました地域公共交通会議においても、交通空白地に限り地域の団体が運行を担うことができる自家用有償旅客運送の導入を視野に入れ検討を進めることを提案し、合意を得たところです。俗に言うデマンド交通の自家用ですね。この方針に従って、今後あらゆる運行の担い手から提案を募集し、本町に適した持続可能な公共交通を構築してまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

次に、5番の3町村が連合しての教育委員会について、今現在のメリットとデメリットを聞きたいについて答弁させていただきます。

連合の教育の成果ですが、連合15年の積み上げにより、2町1村の特徴を生かしつつ、より深く協働・協力・連携を進めてきており、このことで連合ならではの取組を進めることができます。特に学校教育においては、連合管内5校が一つにまとまりとなって教育を進めることで、それぞれは小さな学校ではありますが、他の市町村にできない多様な取組が進められています。その一つが学校間の連携です。二つ目が児童生徒間の協力です。三つ目が教員間の協働です。

具体的には、2小、3小が合同で学習を進める小・小連携です。小・小連携は単に少数を克服するというだけでなく、日常的に生活を共にしていない仲間と交流することで新たな学びを可能にしています。さらに、3小合同の修学旅行では、経費の削減はもとより違う学校間で寝食を共にし、学習するという経験ができてきています。

また、中・中連携では、部活動を合同ですることによって単独ではできない活動ができ、競技力の向上や部活が楽しくできるよう進められています。二つの中学校が兄弟校として共に励まし合い、将来には部活の地域移行を視野に入れ、合同チームとして活躍

してもらえと思っています。さらに、連合独自の部活動として小学校にも門戸を開いた、「ゆるふる部活動」も実施でき、ふるさとを愛する心の育成につながっています。

また、3町村管内全ての学校がよくなることを視野に入れ、学力の充実・向上と個性と能力の伸長を図るべく、全ての学校に授業改善アドバイザーを入れ、協働して取り組んでいます。授業改善に学校を越えて取り組んでいる教育委員会はほかにはないと思います。これも教育委員会が一つであることで教職員の連携が図れることにほかなりません。

また、管内独自のミドルリーダー研修、人権研修、ICT、生徒指導、特別支援研修など様々な連携・協力をしており、教職員の資質向上、能力向上が図られています。

一般的に小規模のデメリットとして、人数が少ないことより競争心が養われない、向上心が減退する、多種多様な経験や意見に触れることができないなどが挙げられます。メリットとデメリットは表裏一体です。小規模をデメリットと考えればそうですが、メリットと考えれば多様な展開ができるということです。幸いにも、連合という教育委員会が一つであることで、さきに述べたような取組が可能となり、小規模であることがメリットとして考えられます。

以上のことから、連合の教育が歩んできた道は大いに効果があったと考えています。これからの連合が進むべき道は、さらに2町1村のそれぞれのよきところを堅持しつつ、連合の子どもたち全てがこれらの社会に適用し、幸せな人生を送ることができるよう、その基礎・基本となる教育に邁進していくことだと考えています。そのため、学校教育、生涯学習の両輪をフルに回転させ、管内5校はもとより、それぞれの団体も連携し、全力で取り組んでいきたいと考えていますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

以上、山本議員からいただきました質問につきましての答弁とさせていただきます。

○議長（吉田哲也君）

3番、山本議員。

○ 3 番（山本達也君）

ありがとうございます。

そしたら、一つずつご質問を深堀りしていきたいと思います。

今、まず 1 番、鷲峰山トンネル開通に向けての観光客を収容する施設ということで予算計上をされた中のそういった施設というのは、これから発展して造っていかれるんだろうなと思うんですが、私はこの町で議員になると、当然、町の方々からいろいろな質問が来ます。よく困るのが、町長が新しくなられました。今、町長はこの町をどういうふうにしたいんですか、それが伝わっていない。3年後、5年後どういうふうな町になっているんですかということが意外と町民の方には伝わっていない。交流人口を増やすということは理解してても、それは具体的にどうやって増やすんだ、何をつくるんだとか、何ができるんだとか、そういうことが全く分からないというふうなことをおっしゃられる方が結構多いんです。

この鷲峰山トンネル開通に向けても、トンネルが開くのに、皆さんが見える形では何一つできてないよね、非常に不安を感じますという方もかなりの数おられます。そんな中で、町長がご自身の口で何か発するほうがいいのかなという気がします。

例えば、3年後にこういうものができますよ。これから和東はこういうふうに変化していきますよ。だから皆さん、今はちょっと我慢してくださいとか、何か町民の方全員が納得できるような和東町の例えば5年、10年後の和東を描けるような何か発言をいただけたらありがたいなというふうの一つ思います。

今現在ですね、まず皆さんが困っているのが、今の和東茶カフェ、あと和東の郷、あの近辺に来られて一番多いのが、夜に来られることはないんで、昼間のランチですね、ご飯を食べるところがないというのが第1番ですね。皆さん、どこで食べたらいいということを聞かれるんですが、あの場所に観光案内所もないので、結局、和東の郷と和東茶カフェのスタッフがいろいろ道案内をされてる。この間、茶カフェの方は、周辺の飲食店の地図を持って、おまけに営業時間とか、そういったことも全部調べて

案内されてるとというのが実態です。

そういったところで考えると、あのスペースにもし何かこれから建設されるというようなことがあれば、まず、そういったランチ難民を救うというよりも、ランチをできる場所ですね、そういったものをつくるのが一番先に欲しいことかなというふうに思うのと、あともう少し簡単なのかどうか分かりませんが、私も農泊の受入れをしまして、中学生の団体バスがガレージのほうに着きます。来たとき、もしくは帰るとき、どうしてもバスに乗り込もうとしてからトイレに行きたい人がかなりの数います。そこからまたグリーンティ和東のトイレ、それもそれほど収容できない数のトイレに団体が行って、出発時間が遅れるというようなことがたびたびあります。だから、あの場所が今後もバスが着く場所、観光客の方が車を止めてという場所であれば、あそこにもやはりトイレの設備は必要じゃないかなと。

こういったことも全て町長が、SNSは悪い情報が流れるというようなことをよく言われてますけども、実際に今の受入れ体制は悪い情報が流れるような体制になっていると。和東へ行ったら近くにトイレもないぞと、ランチもできないぞというようなことが言われるような気がしますので、そういった悪いうわさが全体に広まらないうちに何らかの手を打ったほうがいいのかないかなという気がいたします。

あと、今の場合ですね、単にお茶を買いに来るですとか、農産物を買いに来るですとか、そういった単発的などといいますか、昼間だけ来て帰ろう、何かのついでに立ち寄ろうというようなまちになっているような気がします。これでは外貨を稼ぐというふうな観点で考えますと収入は非常に少ないかと思えます。やはりそこに体験とか学び、そういったものをつけ加えて観光といったものを組み合わせた滞在型ですね、1泊、2泊できるようなプランを立てられる和東町というのが理想かなというのも考えまして、そういったことも視野に入れて、今、少ない宿泊所というのも今後も見直して建設が必要なのかなというふうな気がいたします。

二つ目ですね、B & G 海洋センターについてですけれども、私は移住してきてあの

センターを見たときに、古いとは言いながら、これだけちゃんとしたプールや体育館があるのにあまり使われてないというのがまず一つは不思議でした。なぜ、町民の方々がもっと使わないんだろうというのが一つの疑問だったんですけれども、よくよく皆さんのお話を聞いていると、古いから雨漏りがするですとか、電気が切れてるですとか、プールは今使われてなくて廃墟のようになっているというのものもあるんですけれども、やはりそこを運営する企画者といいますか、例えば、高齢者の健康維持のためのプールを利用した活動ですとか、体育館もそうですね。ああいうところはスポーツというものを起点にして町民の交流を図る、もしくは町外の方も利用できるような施設になると、そこを基準に交流人口が増えると思います。

ああいう施設というのは非常にいい施設だと思いますので、町民の健康維持ですとか向上のための中核施設というような位置づけで、あの場所に町民の方が、もしくは町外の方も含めて、老若男女を問わず交流できるような場所になったらいいなというふうに考えてまして、そのためには前回いろいろお伺いすると、かなりの費用がかかりますよと。ましてや、周りの空き地の部分にアトラクションも置いたような児童公園にするともっとかかるよということなんですけれども、長い目で見たときに、あそこを起点に交流人口が増えるのは非常にいいことかなという気もいたしますので、今後改修に当たってはそういった最終の状態といいますか、完成されたニューB&Gをイメージして一つずつの場所を直していくようなことが必要なのかなというふうな気がいたします。

三つ目なんですけれども、これは今おっしゃられていた新名神の開通自体が2027年ですが、大津のジャンクションから城陽までのジャンクションは2024年度に開通するというふうなことが一応ネット上では書かれておりました。その区間にある宇治田原のインターチェンジは、どちらかという東のほうから来られるお客様かもしれないんですけれども、新名神を通ってくるお客さんは宇治田原のインターチェンジからだ、町役場のほうまでだと大体10分ちょっとぐらいでたどり着けると思う

んです。そういったところから何かその利便性を生かして企業誘致とかっていうものをもっと進められてもいいんじゃないかとか、あとはもちろん景観ですとか自然環境を守るという観点ではそういった環境・企業もそうですし、あまり突出した背の高い建物ではない、新名神の交通機関に近いというところから、例えば倉庫業ですとか、物流関係、そういった企業とかの誘致もいけるのかなという気がいたしますが、その辺のところの企業誘致についてお伺いをしたいんですが、今現在、企業誘致のために何か動きをされているということはございますでしょうか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

それでは、山本議員からいただきました再質問について答弁させていただきます。

まず、今言われているランチ難民の件でございます。

これについては私も懸念はしているところではございますが、和東町としましてはグルメマップを発刊しまして、そのグルメマップを活用していただきたいと。ただ、グルメマップについては若干古い情報も載っておりますので、この点について今後修正をかけていかなければならないということは感じております。

それと、現在あの周辺に四つの施設がございます。四つの施設がどのように動くのかということももうちょっと検証していきたいというように思っておりますので、ご理解のほうをお願いしたい。

それと、今現在、一番心配されているのは、多分、農泊の関係のことがメインになると思うんですけども、農泊の関係につきましては、隣のほうに今、建設しています総合保健センターですね、今後、このあたりの活用も含めた中で検討していきたいと思っております。

もともと和東茶カフェを開設した段階ではございますが、和東町の今現在の身の丈、これから10年先までぐらいの身の丈というのを平成17年から見ておりました。そ

の当時はバス観光がかなり多かったということもあったんですが、うちの身の丈からいうと、個人で車で来てもらう観光がまず先決であるということで、団体を一気に受け入れるということについてはなかなか難しいであろうということが当初の始まりでございます。

その後、農泊等がございまして、団体を受け入れられるようになってきたと。それにつきましては、周辺の木津川市加茂町の施設なども併用しながら検討してきたところでございます。これについては、今後、新たにできる福祉施設も活用していただけるような形を取っていきたいということでございます。

言われるとおり、今の観光といいますのは昔のように何かを見に行く、テーマパークで何かをするというんじゃなくて、体験というのがメインに入ってきてます。これについてはホテル誘致等々も視野に入れながら、今、検討に入っているところで、数社からいろんな問合せは来ております。これをどのようにしていくのかについては今後の検討ということになるかと思っておりますけども、京都府との連携を取りながら、先ほども出ておりましたが、和束町にとってサステイナブルな持続可能な企業の誘致を願いたいということで今動いているところでございます。これについてはまだ具体化されておりませんので、ここで申し添えることは難しいですけども、何らかの方法を取っていきたいということでございます。

それと、一番大きな質問の中の大きな問題ですが、私が町長になった段階で新たなものを何ができるのかということでございますが、これにつきましては、今後考えていきたいというように思っております。

現段階で私の思いの中には、ハード整備を中心には考えておりません。これにつきましては、つくる予算だけではなく、維持していく、それからこれを運用していくということも含めて考えていく場合においては、やはりソフトから順次やっていきながら、その中でハードがついてくるという考え方をしておりますので、物を造るからというような発言は今控えておりますので、この点についてはご理解のほうをお願いし

たいと思います。

次に、B & Gの関係でございます。

B & Gにつきましては、私も入庁以来、関わってきた施設でございます。その当時はいろんなクラブ活動等がありました。例えば、卓球クラブがあったりとか、ママさんバレークラブがあったりとか、いろんなクラブがあり、昼は中学生が、夜は社会人が使ってこられたという現状がございます。これは昭和60年の6,300人の人口ぐらいのときの話から始まるわけでございますが、平成の半ばを超えて人口減少が著しく起こった段階からそういうクラブが一つ一つ崩壊してきたというような状況でございます。それに対して新しい組織づくりというのは、今、連合教育委員会のほうでいろんなクラブ活動を進めておりますので、これがもう少し大きくなっていくことを期待したいと思っております。

それと併せまして、山本議員ご指摘のとおり高齢者です。高齢者に向けての対策については、山本議員おっしゃられるように、ここで何らかの新たなサークルが生まれてこないかということについては検討していきたい。

ただ、現実、今の段階で高齢者のスポーツといいますとゲートボール、それとグラウンドゴルフです。ゲートボールも昭和63年に和東町で初めてつくったとたしか記憶しております。その後、ゲートボールからグラウンドゴルフのほうに移行されていきまして、当時、百数十名おられたゲートボールの方々が今80名程度がグラウンドゴルフに動かれているというような状況で、グラウンドゴルフについては今大きくなってきておりますが、よく言われるニュースポーツについてはなかなか動きが出ていないというのが現状でございますので、これもまた福祉関係の中でソフト事業として何らか動かせるように今後検討していきたいというように思っております。それが室内競技であればB & G海洋センターを活用できると考えておりますので、ご理解のほうをお願いしたいと思います。

それと、和東町の税収を増やすためにというところで質問をいただきました企業誘

致の関係でございます。

企業誘致については内々何社から相談は出てきております。ただ、具体的にそれがどうなっているかということについては、現在のところまだ動いておりません。今後につきましてはいろいろな形で誘致をしていきたいとは思いますが、環境を重視したまちづくりを考えておりますので、そういう企業を中心にお話ができるように、これも京都府、それから近隣市町村と協調しながら動かしていきたいと考えておりますので、ご理解のほうをよろしくお願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

3番、山本議員。

○3番（山本達也君）

ありがとうございます。すみません、質問でお答えをお願いしたのは企業誘致のところだけでございまして、ありがとうございます。

せっかくですので、今おっしゃられたB & Gのことについてちょっと気になるところがあったんですが、高齢者の方のスポーツはゲートボールかグランドゴルフと、多分それだけにはとどまらないと思うんですね。体育館を使ったような健康体操ですとか、言わば、朝のラジオ体操的なイメージでもう少し高齢者の方のことを考えた体操で健康維持を図るですとか、プールのほうはですね、例えば、足の悪い方が自分の体重が重いんで足に負荷がかかるからということであれば、水を利用して体重を軽くして行えるような体操もできると思うんですが、そういったことも視野に入れていただければなど。ゲートボールとグランドゴルフだけというような用途ではないと思うんで、それはお願いしておきたいと思います。

今、3番目、企業誘致のことをいろいろお話しいただいたんですけれども、企業誘致も今おっしゃられたように、環境の問題ですとか、自然破壊とかございますので、そういったことにあまり影響のない企業を誘致してほしいと。

例えば、精華町は大き過ぎるんですけれども、ああいう研究施設みたいなものです

ね、平屋か2階建ての建物の中でやるような、そういったものもいいんじゃないかと思うんですけども、具体的に企業誘致に関して、私、今までいろんなところで企業誘致の話を聞いてますと、町長自らが企業を回ってると。そこに直接行って話をして、自分のまちのいいところを伝えて誘致をお願いするというようなことをされてる町も結構多いと聞きます。町長自身もそういったことはやられたことはございますか。できればそれをもっと強く推し進めていただければありがたいと思います。

もう一つですね、最近、この町にお金を落とすという意味の中では、ふるさと納税という制度がございます。ふるさと納税自体も、これは一つのふるさと納税のサイトですけども、2022年、和東はどれだけあったかということで、これはトータル額だと思うんですが、281件で302万6,000円という額が計上されてました。じゃあ、宇治田原はどれだけあるんだということで、宇治田原はかなり多くてですね、1万1,012件あったと。総額が2億815万7,000円だったと。かなり強烈な差があると。南山城村はどうかということで、996件で1,446万3,000円あったと。和東は302万円しかないというところは、何かやり方が問題なのか、出してるものが少ないのか、金額設定なのか分からないんですけども、このふるさと納税を使ったガバメントクラウドファンディングというのが最近自治体の中でもよくささやかれているところで、これは非常に簡便なシステムというか、ふるさと納税を使ってクラウドファンディングをしようよという話なんですけど、こういったことというのは、今、想定の中に入れていらっしゃいますでしょうか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

若干、答弁の修正もかけながらの答弁になりますので、ご理解ください。

先ほど僕が言いましたグランドゴルフとゲートボールにつきましては、現在行われている老人のスポーツでございます。それについて今後ニュースポーツについては福

社系のことになりますので、これは今後、原課を通じて検討していきたいということ
でございます。

ただ、今も行われておりますが、ふれあいサロン等々では、今言われている体操と
か、それからまた医師が訪問するとかいうようなことをやっておりますので、これは
各区単位で行われている部分をもうちょっと大きく考えていくということは今後もや
っていけばいいのかと思っておりますので、お願いしたいと思えます。

それと、ふるさと納税の関係でございます。

これは以前から村山議員がよく言われてきた内容でございます。いろいろ工夫を凝
らしておりますが、現段階ではその数字しか出ていないというのが現状でございます。

ただ、今言われているように、今後クラウドファンディングも含めまして、いろん
なことに和東町の中で求めたいものがあるならば、そういうことに関してご意見をい
ただきながら、また、そういうことも進めていきたいというふうには思っております
ので、ご理解のほうをお願いします。

○議長（吉田哲也君）

3番、山本議員。

○3番（山本達也君）

ありがとうございます。

何らかの形でこのふるさと納税を利用したクラウドファンディングというのはかな
り期待できる部分もありますので、あとはどういう訴え方をするか、お金を出そうと
いう方の心に響くような訴え方次第という部分もあると思えますので、役場の皆さん、
お忙しいとは思いますが、そういったチームをつくってやるぐらいの価値はあるの
かなというふうには思えますので、よろしくをお願いします。

次は4番目ですね、鷲峰山トンネルの交通網なんですけど、この間、委員会でもちょ
っと申し上げたんですけども、こういった過疎の地域こそ、今いろいろ話題になっ
ているライドシェアというシステムが非常に合うんじゃないかというふうに考えてま

す。そのライドシェア自体は、今、賛否両論、いろいろ分かれてますけれども、都会の場合はいろいろタクシー業界もたくさんありますので問題が多いかもしれないですが、こういった過疎地の場合はライドシェアというのは非常にいい交通システムだなというふうに私は思ってます、石川県の加賀市とかはライドシェアを実際に自治体を中心になって実現しようというふうな取組を始めているというふうにも聞きます。

国家戦略特区というライドシェアの特区みたいなものの枠組みを活用したですね、和東でも和東のライドシェア特区みたいなものが申請できるのかどうか、そういったものも、もしご存じであれば今お聞きしたいんですけれども、質問の内容は書いてませんでしたので、もしご存じであればということをお願いします。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

特区申請につきましては、申請の段階で通ればできると私は思っております。ただ、その内容が、今の特化したライドシェアが本当にうちに合うのかということについては、検討する余地があると思っています。

私の現状把握の私見となりますけれども、現在、私がよく言っている公助・自助・共助ですね、確かに高齢化が進んでおります。その中で、例えば買い物に行きたい、病院に行きたいということに関しては、近所のおばちゃんたちが同じ時間に合わせて車の免許を持っている方が乗せていってあげてるといような状況は今もあります。これに代価が払われているのかといいますか、代価じゃなくてお礼という形で何かをもらったような形で終わっているようなことをよく聞きますし、うちの母親もそういう形で動いたりもしています。なので、今、先にライドシェアに取り組んでいくよりも、W a z C a rのような、とりあえず公共交通をどうするかということがまず1点。それに合わせて共助、この部分で地域コミュニティをもう少ししっかりとくみ上げられたら、ライドシェアでなくても地域のコミュニティでそういうことがカバーできるの

かなと思っております、これについてはいろんな保証の問題とか、事故の場合のこともありますので、この部分も含めた中で今後の公共交通の中に組み入れていくかどうかについては検討してまいりたいというように思いますので、お願いします。

○議長（吉田哲也君）

3番、山本議員。

○3番（山本達也君）

ありがとうございます。

ライドシェア特区、どういう中身か分からないんですけども、イメージとしては、ライドシェアをやられる方が町に登録をして、事故があったときもある程度は町がカバーをする、保証するというような形だと比較的住民の方もライドシェアをやりやすいのかなと。

私の住んでる裏のおばあちゃんですけども、84歳のおばあちゃんを82歳の方が運転して買い物に連れていっているという現状で、これは時間の問題で二人とも乗れなくなるということになると思いますので、そういったところもありますので、今おっしゃられた地域コミュニティも大事なんですけれども、それが全て通じるというか、あるかというのと、ない地域もありますので、その辺のところも考えていただけたらなと思います。

最後、3町村が連合しての教育委員会についてのメリットとデメリットなんですが、先ほどお答えいただいた中で、メリットのほうは非常に多くお答えいただいたんですが、デメリットですね、これが小規模だからデメリットという話をされていたんですが、ほかに、3町村が連合していることよってのデメリットというのがお伺いできればと思うんですが、あればですけども、お願いします。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

はい、答弁させていただきます。

私も、平成22年から25年まで連合のほうに派遣をされておりました、連合の生涯学習、それから総務課を経験しております。基本的に私の立場でいいますと、推進派と取られるかと思えますけれども、私の中ではデメリットというのはあまり感じませんでした。といいますのは、今までであれば、地教委といいますけれども、教育委員会の中に複数の学校があれば同じ小学校同士でいろんな情報共有ができるんですけども、和東町・笠置町・南山城村にしましては、1小1中という形になってます。そうすると、小学校の中の話でも、ほかの教育委員会と話をしなければならないというようなことがまず前提になります。こういう意味から言うと、特に教える側に対してはデメリットは少ないと思っております。

あと、学校側でいいますと、メリット・デメリットになるんですけども、確かに和東小学校と笠置小学校の差はどうかとか、南山城村の小学校はどうかとかいうことはあるかも分かりません。でも、私の知り得る中では、それが表立って問題化されたことは現在ございませんし、予算につきましても、和東小学校の予算は和東町が見る、笠置小学校の予算は笠置町が見るとなっていますので、その辺についてはその町々のニーズに合った教育もされているというように思っておりますので、あまりデメリットについては私のほうでは体感、それからそういう話を聞いたことはないということでご理解願います。

○議長（吉田哲也君）

3番、山本議員。

○3番（山本達也君）

ありがとうございます。

教育環境についてですね、私、和東町の教育がもっとオリジナリティーあふれると
いいですか、日本でここの教育を受けさせたいなと親が思うような教育をされている
かということ、そうではないと思うんですね。教育を受けさせたいから、そのファミリ

一全体が移住してくるというようなぐらいの教育環境をつくろうとしたときに、3町の連合というのがどうなのかなというのがちょっと気になったので、この質問をさせていただきます。

これは大人の問題もそうなのかもしれないですけども、子どもが自分自身の力で生きていけるようなスキルをこれから持たないと非常に厳しいかなというふうな環境だと思うんですね。そこで、どうなるか分からないという世の中で、自分の信念を持って取り組んで達成できる精神とスキルを身につけるということは非常に重要だと思いまして、一つは世界に通用する価値観ですとか語学力を身につける。あとは、この和東の場合ですと、歴史に習熟をして、今までのまちをつくってきた状況を把握しながら、これからのまちづくりをどうするかというようなことも小中学生が考えて、大人と意見を交えるというような教育環境も必要かなとか、あと、それ以外に、今の時代に則した技術・技能を身につける。例えば、小学生・中学生が会社を起こす、起業してもいいわけですね。そういうような教育ができていますとか、プログラミングもそうですし、ITもそうですし、そういった今の日本の中で和東町ですごい教育をやってるよねというようなことを今後言われるような教育環境ができたらいいなと思うんです。そうすることによって人口が増える、家族が増えるということも可能性としては見えてくるかなと思います。

和東町には高校がありませんので、高校へ行くというタイミングでこのまちを離れる方も結構いらっしゃいますし、そういうところを防ぐような手はないかなといろいろ考えていたんですけども、今は高校の教育についてもオンラインでできる時代でもありますし、それがいい悪いは別にしまして、まちを離れなくても教育を受けられるような環境があるのはあるんですね。それで高卒資格も取れるんですけども、もう一つその次のステージを考えますと、国際的に通用する大学の入試資格、それを取れば全世界の大学へ行けるというような資格ですね、国際バカロレア資格というんですけれども、それを取れるような教育機関がもし町内にあれば、それはそれで何かの

一つの大きなこのまちの特徴になるのかなという気もします。そういったことも今後は必要になってくるかなと思うんですけれども、そういった独自の教育環境について、町長はご自身のお考えはあるでしょうか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

はい、答弁させていただきます。

私も子どもの教育についてはかなり興味がありまして、いろんなことで子どもたちと関わっているのも現実でございます。昔、総合学習のモデル校に和東中学校が指定されたときも、外部講師として参加させていただいたりとかしてきており、そのときに子どもたちが言った中で一番おもしろかったのは、「おっちゃん、一緒にハーゲンダッツの会社にお茶を売りに行こうや」と、こういう発想が出てきた。子どもたちからそういう活動をやりたいという発想が出てきたのはいいことだと思っております。

今、言われるように、ネットがこれだけ進化してきました。ネットを使った教育というのは十分できると思っておりますので、その辺については、先ほど言われたように、大学卒業とかというのも取れるようになってきておりますので、こういった環境をどのようにするのかということにつきましては、先日、教育長ともお話をさせてもらっております。連合ということの中で和東町が何かできないじゃなくて、教育委員会というのはもともと町長部局の外にあるものでございまして、教育委員会に町長ないし町がこういうことをしてほしいということをお願いする中で行政が動いていくものでございます。そういうことについては、今の山本議員の意見を十二分に参考にしまして申し入れていきたいと。それで、新たな教育が生まれてくるのであれば、それは応援していきたいと思っておりますので、ご理解のほうをお願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

3番、山本議員。

○ 3 番（山本達也君）

ありがとうございます。

一応、質問は以上になるんですけども、町長が一番最初に言った、もう一度町民にこの町がどうなるかとか、この間、ちょっと水道料金の話も出ましたけど、そういったところも町民に分かりやすく、なぜ上がったのかとかも含めて、まず、町民にそういったことをみんなが分かる形で発信していただくということは今後お願いしたいなと思います。

以上で質問を終わります。

○ 議長（吉田哲也君）

山本達也議員の質問を終わります。

会議の途中ですが、ただいまから午後 2 時 3 5 分まで休憩いたします。

休憩（午後 2 時 2 1 分～午後 2 時 3 5 分）

○ 議長（吉田哲也君）

休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続けます。

岡本正意議員。

○ 6 番（岡本正意君）

皆さん、こんにちは。日本共産党の岡本正意です。ただいまから一般質問を行います。

第 1 に、住宅の整備、確保を進め、定住の受け皿づくりをについて質問いたします。

本町での定住を進めるために住宅の確保が重要な課題であることは、前町長との論戦でもその認識は一致しておりましたが、具体的な検討は進んでおりませんでした。

新町長として、ぜひ具体化を進めていただきたいと考え、2 点伺います。

1 点目に、トンネル開通も見通し、定住人口を増やす受け皿として住宅の確保が欠かせないと考えておりますが、住宅の整備、確保に向けて、どのようにお考えがあり、取り組まれるのか答弁願います。

2点目に、若い世代や子育て家庭を対象とした一定数の公的住宅の整備が必要と考えますが、町長のお考えはいかがか答弁願います。

第2に、奈良交通バスの運賃値上げへの対応について質問いたします。

1点目に、来年2月から値上げが予定されておりますが、奈良交通からその説明を受けられたでしょうか。また、町として説明を求め、意見をあげる等の働きかけは行われたでしょうか。

2点目に、和東木津線は、奈良交通が自力のみでなく国庫補助を受け、本町が赤字補填を行う路線であり、一律値上げの対象とされるのは私は不適切ではないかと考えております。奈良交通に本路線の値上げ撤回をまず求めるべきではないでしょうか、答弁願います。

3点目に、値上げを利用者負担に転嫁しない対策、負担軽減の取組の強化について伺います。

一つは、値上げ分を利用者負担に転嫁しない何らかの対策を求めたいと思います。

二つ目には、「敬老パス」など高齢者の運賃補助の実施をこの際、求めたいと思います。

三つ目には、高校生通学定期代補助の全額補助について、この拡充をこの際に求めたいと思います。町長のお考えを答弁願います。

第3に、物価高騰から暮らしを守る本気の取組について質問いたします。

物価高騰の波は、引き続き毎月毎月高く大きくなり続け、暮らしへの影響は昨年よりも、また今年度当初よりも、また9月よりも比較にならないほど深刻になっております。住民福祉を守ることを使命とする自治体の役割を自覚し、危機感を持って取り組むことを切に求めたいと思います。

その上で4点伺います。

1点目に、この12月補正で具体化をした施策はどのような内容でしょうか。国の財源、施策の枠内のみではなく、町独自の財源活用による対策を検討され具体化され

たでしょうか。

2点目に、水道料金等の負担軽減の決断と実施を求めます。具体的には、この年明け1月から3月の簡易水道基本料金免除の実施を提案いたします。また、同様に、下水道基本料金の免除やくみ取り料金の軽減についても併せて求めたいと思います。また、最低でも、簡易水道の基本水量の10立米に戻す措置をこの際、決断され、引下げをされることを強く求めたいと思いますが、いかがでしょうか。

3点目に、来年度からの高齢者の介護保険料の引下げを求めます。

そして、4点目に、来年度からの小中学生の入学時負担の軽減、無償化の実施を求めたいと思います。

以上、答弁を求めます。よろしく願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

それでは、岡本議員からいただきました一般質問について答弁をいたします。

最初に岡本議員からいただきました一般質問1.住宅の整備、確保を進め、定住の受け皿づくりを、（1）トンネル開通も見通し、定住人口を増やす受け皿として、住宅の確保が欠かせないとするが、住宅の整備、確保に向けてどう考え、取り組むのかについてですが、本町においては、空き家の掘り起こしや空き家改修のための移住促進住宅整備事業補助金などにより、空き家の利活用による施策を推進しているところであり、空き家の放置に伴う防災・防犯・衛生・景観など、地域住民の生活環境に影響を及ぼす問題を解消するという観点からも有効に活用できる地域資源である空き家の利活用を引き続き進めてまいりたいと考えているところです。

また、町営住宅をはじめとする住宅の確保につきましては、現在、町営住宅の入居状況や募集状況を鑑みると、公営での住宅整備は一定のリスクがあると考えられ、トンネル開通に伴い、民間事業者の参入も期待されることから、需要と供給のバランス

を踏まえ慎重に検討していく必要があると考えているところでございます。

次に、（２）若い世代や子育て家庭を対象とした一定数の公的住宅の整備をについてですが、先日、町営住宅の募集を行い、その状況を見てみますと、６戸の募集に対し高齢者の単身世帯の方から４戸の応募があったのみで、若い世代や子育て世帯からの応募はなかったという状況です。

先ほども申し上げましたとおり、これらの状況を鑑みると、公的な住宅整備については多額の整備費用、また維持管理経費を要することからも財政状況やトンネル開通に伴う周辺地域の状況、民間事業者や子育て世帯の動向なども踏まえた慎重な検討が必要であると考えているところでございます。

また、子育て世帯については、住宅のリフォームなどにかかる費用の一部を補助する和東町子育て世帯住宅リフォーム等支援補助事業などを実施しているところであり、このようなソフト面での支援の充実を中心に、定住人口を増やす取組を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

次に、２番、奈良交通バスの運賃値上げの対応はについてであります。

奈良交通バスの運賃値上げにつきましては、燃料高騰、コロナ禍以降の乗車人数の減など、様々な要因が相重なったの苦渋の結論だと聞いています。日本経済は上向きになりつつあるとは言われながらも、なかなかその効果が住民生活に及んでこない中、世界経済は地域紛争などにより不安定感をあおるなど、先行きが不透明なことは私も承知しておりますが、何より官民同様、安定的な事業運営に理解をいただきながら、応分の負担をお願いせざるを得ない状況をご理解いただきたいと思います。

なお、（１）から（３）の質問につきましては、担当課長のほうから答弁させますので、ご理解のほうをお願いいたします。

続きまして、３番、物価高騰から暮らしを守る本気の取組を、（１）１２月補正で具体化した施策の内容は、国の財源、施策の枠組みのみでなく、町独自の財源活用での対策を検討し、具体化したのかについて答弁いたします。

本町の財政状況につきましては、岡本議員もご承知のとおり、財政力指数が京都府内で最も低い地方公共団体の一つであります。税収入等の自主財源が20%に満たない状況でございます。しかしながら、コロナ禍により続く物価高騰は住民生活に大きく影響を与えることは私も実感しており、国の補正予算がつけば生活支援を講じたいと以前から申し上げていました。

今般、国の交付金の内示をいただきましたので、12月定例会におきまして町内の商工業者の支援事業と地域経済の活性化、住民の皆様の生活を支援するため、生活応援商品券事業を計上しております。また、非課税世帯に7万円の給付を行う価格高騰緊急支援給付事業においても12月定例会に予算計上し、早期の支給を目指すものでございます。

先日12月9日午後から政府関係者との意見交換会があり、出席をする機会がありました。また、その場で意見も述べる機会もありました。山城管内の状況を申しますと、今回の国の補正にいち早く対応した自治体は少なく、私としては胸を張って発言することができました。和束町の財政状況を鑑み、まず、職員が一丸となって取り組んでいること、今の和束町ができ得る最大限の努力を評価いただきたいと思いますので、ご理解のほうをお願い申し上げます。

次に、(2)水道料金の負担軽減の決断と実施をの①年明け1月～3月の簡易水道基本料金の免除を。同様に下水道基本料金免除、くみ取り料金の軽減をについてですが、先ほども答弁させていただきましたとおり、本定例会において生活応援商品券事業や価格高騰緊急支援給付事業などについて町単費も含めて予算補正の提案をさせていただきます、価格高騰に対する住民支援を実施してまいりたいと考えているところです。

生活応援商品券事業などにつきましては、高齢者世帯や子育て世帯、また茶業や飲食業を行っている方など、世代や業種を問わず幅広く町内の住民の皆様が活用することができ、また、町内の商工業者を中心に利用されることから、地域経済の活性化にもつながると考えているところであり、このような観点から、限られた財源の中で、

より効果的な支援となるよう事業を進めさせていただきたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

次に、（２）水道料金等の負担軽減の決断と実施をの②最低でも簡易水道基本水量を10立米に戻す措置をについてですが、岡本議員もご承知のとおり、先般の水道料金の見直しにつきましては、安心安全で安定的な水道供給を図るために実施した統合簡易水道事業等に係る元金・利子の償還を主な要因として、簡易水道事業の経営状況を踏まえ見直しをせざるを得なかったものでございます。

今回の元利償還金につきましては、令和8年度をピークとして令和11年度まで高い水準で償還が続くこととなり、一般会計等で負担すると定められているものを除き、水道料金収入を主として経営しなければならないとする独立採算制の原則に基づき、安定的な水道経営を継続していくためには、水道料金の引下げの実施は難しい状況にあります。

水道料金収入の減収分を基金を活用して一般会計からの繰入れにより補填できるのではとの意見もあると思いますが、独立採算の原則に基づき経営することが、地方財政法、また地方公営企業法に定められており、原則、一般会計等で負担すると定められた基準額以上の繰入れはできないこととなっているというところです。

また、将来にわたり、毎年度数千万円の繰出しを継続的に実施することは一般会計の財政を圧迫することとなり、新規事業の中止や延期、さらには既存事業、特に、単費事業として行っている様々な事業の廃止などを実施せざるを得ないことにもつながります。

さらに、基金については、起債許可団体となる実質公債比率18%以下を堅持するために大幅に取り崩す予定をしており、今後の道路・橋りょう整備事業や西部水源整備事業など、起債が必要な事業を推進していくために、現在、計画的に積み立てているものであるとともに、大規模災害などの不測の事態に備え積み立てているものでございます。

先ほど申し上げましたとおり、国や京都府からの交付金による経済対策予算につきましては、いち早く住民の皆様届けられるよう職員が一丸となって努力しているところでございます。価格高騰緊急支援給付事業や生活応援商品券事業などを通じて、物価高騰に対する住民生活支援をできる限り継続してまいりますので、こちらについてもご理解いただきますようお願いいたします。

次に、（４）来年度からの小中学校の入学負担の軽減、無償化の実施をについて答弁させていただきます。

相楽東部広域連合では、教育費の保護者負担の軽減及び連合の「人づくり」の観点から各種施策を講じており、中でも給食費の無償化は平成30年度から取り組んできました。ほかにも修学旅行費や校外学習費、各種検定試験受験料等の全額補助を取り組んできたところです。入学時の負担軽減については、経済的な困窮家庭を対象とした就学援助制度において、入学費の一部援助を目的に、新入学児童生徒学用品費を支給しており、保護者に一時的に立替え負担が生じないよう毎年12月に制度周知し、2月に支給しているところであり、現在のところ、和東町単独での支援の拡充は考えておりません。

以上、岡本議員からいただきました一般質問の答弁とさせていただきます。

○議長（吉田哲也君）

総務課地方創生担当課長。

○総務課地方創生担当課長（富田幸彦君）

岡本議員の一般質問の2. 奈良交通バスの運賃値上げへの対応はの（1）から（3）のご質問につきまして、私の方からご答弁を申し上げます。

（1）来年2月から値上げが予定されているが、奈良交通から説明を受けたのか。また町としての説明を求め、意見を述べる等の働きかけを行ったのかについてでございますが、今回の運賃改定につきましては、令和5年8月25日に、奈良交通から国土交通省近畿運輸局長に対しまして認可申請が行われております。それと同時に、本

町に対しましても直接来庁されまして、運賃改定の認可申請に至った理由ですとか、申請された内容につきましてご説明を受けております。

また、その後も奈良交通様と対面で協議する場を設けまして、運賃改定の背景についてヒアリングしたり、住民の負担増についてのご理解を訴えてきたところがございます。

次に、（２）和東木津線（６５系統）は国庫補助を受け、本町が赤字補填を行っている路線であり、一律値上げの対象とされているのは不適切ではないか。奈良交通に本路線の値上げ撤回を求めるべきではないかについてでございますが、路線バスの運賃は、道路運送法の規定により乗合バス事業の能率的な経営の下における適正な原価に適正な利潤を加えたものというふうに定められておりまして、国土交通大臣がその内容を適正かどうか審査し、認可をされるものでございます。

また、地方部の運賃におきましては、認可を受けた基準賃率にバス停間のキロ数をかけて算出されます対キロ区間制というものが適用されます。このように路線バスの運賃は、法令それから国の審査によって適正に決められるものでございまして、本町路線に限って異なる運賃を定めることですとか、値上げの撤回を訴えるということは非常に難しいというのが状況でございます。

今回の運賃改定につきましては、沿線人口の減少、それから少子化による利用者の減少に加えましてコロナ禍が大きく影響し、運送収入の回復が非常に困難になっているということと、一方で、昨今大きくニュースで取り上げられておりますように、大型２種免許の新規取得者の減少、現役バス運転手の高齢化によりまして、バス運転手の不足が顕著になっていることが理由であるとの説明を受けております。

本町としましては、今回の運賃改定によりまして乗合バス事業の経営の適正化が図られること、こちらの方を重視しまして、これから将来にわたって和東町の公共交通の維持確保に向けて取り組んでまいりたいというふうに考えております。

次に、（３）値上げを利用者負担に転嫁せず、負担軽減の取組を、①値上げ分を利

用者負担に転嫁しない対策を、②敬老パスなど高齢者の運賃補助の実施を、③高校生通学定期代補助を全額補助については全て関連しておりますので、まとめて答弁をさせていただきます。

まず、高齢者向けの対策としましては、路線バス高齢者利用促進乗車券事業を令和3年度から開始し、数え年70歳の住民の皆様を対象に、奈良交通のICカード「CICA」を配布しておりますほか、運転免許証を返納された方に対しましても、同じくCICAを配布し、負担軽減策を既にこれまでも講じてきたところでございます。自家用車からバスを利用した生活へのスムーズな移行をこういった施策で推進してまいりたいというふうに思っております。

また、高校生向けの対策としましては、子育て世代の負担増を配慮し、奈良交通におきましても、今回の運賃改定に伴い、通学定期の割引率を拡大するというふうに伺っております。これに加えまして、令和2年度から拡充しております高校生通学費補助金をご利用いただくことで、ご家庭の負担は大きく軽減されるものと考えております。現在の制度につきましても、ほかの自治体と比べましても、補助率、それから補助対象者の面で充実した制度となっているものと我々としては捉えておりますので、ご理解賜りますようよろしくお願いいたします。

以上、岡本議員の一般質問の答弁とさせていただきます。

○議長（吉田哲也君）

福祉課長。

○福祉課長（北 広光君）

それでは、私から、岡本議員の一般質問大きい3番、物価高騰から暮らしを守る本気の取組をの（3）来年度からの高齢者の介護保険料の引下げをについて答弁させていただきます。

先ほどの岡本議員の質問の中にもありましたが、社会情勢などから物価高騰が続いておりますが、和束町の介護保険料は、国の介護保険制度に基づき保険料の基準額を

設定させていただいております。この介護保険料については、岡本議員もご承知のとおり、3年を1期とした介護給付の計画に基づき、介護サービスに必要な量、費用などから算出し、所得に応じて決定されますので、物価に左右されるものではございません。

しかしながら、国の住み慣れた地域での在宅介護の推進やコロナ禍などにより、和東町でも訪問系サービスが伸びており、その分、施設サービスの給付の伸びが一定落ち着いてきたところがございます。

現在、次期計画を策定中でございますが、直近の給付実績などを元に介護保険料の設定を算定計算中でございます。今の時点では介護保険料についてはお示しできませんが、鋭意努力してまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

以上、私からの岡本議員の一般質問への答弁とさせていただきます。

○議長（吉田哲也君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

ありがとうございます。それでは再質問させていただきます。

まず、1番目の住宅の問題ですけれども、先ほどの町長の答弁では、前町長とほぼ変わってないといえますか、空き家の活用を軸にして、また、民間の活用を今後考えていきたいと。公的な住宅の整備は難しいという意味では、何ら変わってないというふうに思うんですけども、やはり空き家というのは、もちろんこれを活用していくことは大事なんですけども、基本的に個人の財産であります。これを当てにして、今後それを受け皿にしていくってことは一つの施策としては必要ですけども、それだけに頼るといえるのはやはりどうかというふうに思っております。

また、民間の問題についてもですね、トンネルが開いたら民間がやって来るという保証もありません。民間が建てた場合に、例えば、その家賃がどの程度のものになるのかってことも、やはり民間のすることですから、収支を考えて一定の価格とい

うものがやはり設定されていくっていう点では、簡単に入れるような物件になるかどうかってことも不透明だというふうに思います。そういう点では、やはり公的な住宅を今後計画的に一定数は責任を持って確保していくってことは、本当に定住を進めたいのであればやっていくべきじゃないかと思うんです。

それで、先ほど町長は、この間の町営住宅の募集状況を例に取って、いわゆるニーズがあまりないといったことを言われてますけども、現在の公営住宅法で規定されたものというのは、その入居については、所得状況であるとか、そういったものがかなり厳しいラインがございます。必ずしもそういう若い世代、ファミリー世帯が対象になるといった状況にならないということもございます。そういう意味ではやはり、町として自由度のきく、入りやすい、そういう町営住宅を整備していくということが、若い世代をこの和東町で定住していただいて、ここで生活していただくという基盤を進めていく上では必要じゃないかと思います。

その点で、今回一つの例として、東京都の奥多摩町というところの住宅政策についてご紹介したいと思うんですけども、この奥多摩町というのは、人口4,600人程度の町で、どちらかといえば山梨県に近い町だというふうに伺っております。この町では、平成21年度頃から町内若者住宅というものを整備をされ始めまして、現在39棟62戸を既に整備・保有されております。入居対象は40歳以下のご夫婦や50歳以下で中学生以下の子どもがいる世帯、また、これは在住や地域でおられる若者とか、また移住者問わずに受け入れて、現在、大体半々の方で住まわれてるっていうふうに伺っております。

家賃は、月2万円から3万円台、これは近隣相場の半額というのを目安にして設定されているというふうに伺いました。

建設費用については、約1棟建てるのに奥多摩町の担当者の話では、1,700万円というふうに聞いております。1棟で大体二、三戸分を整備できるということで、これ自身は町単独での支出というふうにも言われておりましたけども、前年度につき

ましては国の社会資本整備総合交付金の補助を受けられて、45%の補助で整備されたというふうに伺っております。

こういった例を見ましても、町としてしっかり計画的に整備をしていくのであれば、財政的にも決して不可能ではないんじゃないかというふうに思いますし、やはり先ほど山本議員の話の中で、いわゆる税収を上げていくということが言われましたけども、やはりそういう若い世代、現役世代がここに定住していただくということが、ここで住民税を払い、また税金を落としていく、ここで生活をして消費をしていくと、そういうようなことにもつながっていくわけで、目の前の支出に脅えて将来のそういったものを失っていくということでは、トンネルが開通するメリットというものを十分生かせないというふうに思うんですね。

そこで町長にお伺いしますけども、こういった例も知っていただく中でですね、やはり公的住宅の整備というのを排除せずに、どうすれば実現できるかという観点で検討の俎上に上げていただきたいと思うんですけども、その辺いかがですか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

先ほども山本議員の中で答弁させていただきましたけども、実際、今、鷲峰山トンネルが開いた後の状況というのはまだまだ不透明なところがございます。その中で企業誘致というような話も出ております。そこらも含めた中で、今後の検討の中にはあるかも分かりませんが、現段階では、まずは環境整備のことも含め、それから、和束町の財産を守ることも含めた中で、空き家施策を中心に考えていきたいということですので、ご理解のほうをお願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

トンネルが空いたことでどういう効果が出るかということは、もちろん不透明というか、分からない面もありますけども、ただ、やはり先ほど町長はですね、開けることによって要は大きなメリットというか、そういう展望が開けるんだと言われましたよね。ですから、やはりそういうそのトンネルが来年度には開通するという事は決まっているわけですから、そこに向けて和東町としてそういう世代を受け入れていくっていうメッセージを伝えていくと。町としては、そういう人たちがトンネルが開くことによってここに住んでいただくという受け皿をつくらうとしているということをメッセージを先に送ることで、開いたときにそういう効果が現れるというね、ただ単に開いただけでその効果なんて出るわけないんで、そこに向けてどういう仕掛けをつくるか、どういうメッセージをつくるかということが大事だと思いますし、この住宅をどう確保するかというのは、前町長のおかげから大きな課題だったというふうに思います。

もう一度聞きますけどもね、そういう点では、公的な住宅を整備するという事を排除せずに、どうすれば実現できるかということも含めて、ちゃんと検討の中に入れるということはぜひしていただきたいと思うんですけども、もう一度お願いできますか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

はい、答弁させていただきます。

私は排除するとは一言も言っておりませんので、その点をご理解願いたいと思います。状況に見合った形の計画をつくっていきたいということでございます。

○議長（吉田哲也君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

排除されないということですので、そこは重要な答弁だというふうに思います。

この奥多摩町というのは、今現在、次のステップに入っておられて、ここの町営若者住宅というのは入居可能期間というのがあるんですね。いわゆる30歳以下の方については12年間、40歳以下は10年間、50歳以下の方が7年間という、いわゆる入居が可能な期間を設けて、それを経て新しいところに住んでもらうというような方策を取っておられます。

その受け皿として、今、子育て応援住宅というのを分譲されてるんですね。そこから出られた方をさらに受け皿として持っていくと、それは一応町としてのもので、家賃という形で5万円を払っていただくんですけども、子どもさん1人当たり5,000円を軽減するといった補助も設けておられます。22年間経過すれば譲渡するという条件で、この子育て応援住宅を新たな受け皿として準備を進めておられるという話も伺っております。ですから、今後、和東町で長い目で見て、そういう若い世代というものを受け入れて、そして、そこへずっと住んでいただくという意味での仕掛というものもつくっていかないと、なかなかやはり住んでいただけないという状況もありますので、ぜひ、こういったことも参考にさせていただいて、先ほど公的住宅の整備自身を排除しないということでは言われましたので、そこはぜひ検討の俎上に乗せていただいて、ぜひこの点について実現をしていけるようお願いしたいというふうに強く要望しておきたいと思います。

次に、バスの問題ですけれども、先ほど一応、奈良交通の方から説明を受けられたという話をいただきました。これは当たり前といえば当たりの話ですけれども、その上です、もう一度町長にお聞きしたいのは、先ほど言いましたように、この奈良交通の和東木津線というのは、国や京都府の補助も受けて、さらに赤字が出た場合は和東町が全額補填すると。奈良交通にとってみれば、ほぼ負担が少ないというかね、そういう路線として運営をされています。その上、この間4月から原山湯船間を廃止して経費を節減すると、そういった意味で、維持をするために和東町としても協力、努

力してきたと。そういう意味でも、湯船の皆さんにはそういったものを強いてきたということがございます。その上に今回のさらなる値上げというのは、やはりこの間のそういう努力に冷水をかけてですね、また台なしにするようなものだと私は思うんですよね。やはりそういったことも含めて、奈良交通は奈良交通の事情はあるでしょうけども、和東木津線というのはもともと運賃というのは高いわけです。高いんですよ。大体、河原とか往復で1,000円以上かかるわけですからね。高校生の通学補助も充実してるといってもね、要は、私の子どもがいたときでも、河原のバス停から加茂までの定期代というのは、補助を受けられますけど、20万円以上してるわけですよ。こんなことを木津川市の方で負担している高校生ないですよ。それは交通事情が違うからですけどね、そこは本当にいろんな事情がやっぱり違うわけですよ。これ以上、運賃が値上げになれば利用につながるなんてことは私はまずないと思うんですよね。やっぱりさらにマイナスの方向にどうしても行ってしまうという力になってしまうというね、町長、その辺はいい悪いは別にしてもね、今回の値上げというのが路線維持にとって決して有益なものじゃないというものはお認めになりますよね。どうですか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

岡本議員の答弁をいたします。

私、就任以来、奈良交通のバスで出張するようにしております。できる限り利用できる時はするというような方向を取っております。私にとっては便利ではあると思っておりますし、私の子どもも2人とも全て奈良交通で通学をさせました。

今の料金の値上げが高い安いという議論がありますけども、これはお互い経営をしていく中で必要なものについては応分の負担をしなければならないというのは、そういうことであるということで私は理解しておりますので、ご理解のほうをお願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

町長の便利かどうかという話を聞いているんじゃないでね、やっぱり今回の値上げというのは、バス路線の維持にとってはプラスにはならないというふうに思うんですよね。

そういった点で、どうしても奈良交通の事情というか、応分の負担と言われますけどね。応分の負担とは何ですか。実際、町から多額の税金もつぎ込んで、赤字も補填して、それ、住民の税金でしょう。もう十分に応分の負担しているじゃないですか。その上で、住民にはどうしようもならないような物価高騰とか人手不足とか、そういったものを理由にして値上げすることが、なぜ住民にとって応分の負担であるのかというね、それは住民に関係ない話じゃないですか。であるならばね、やはりそういう負担のかからないようにちゃんとどうにかしてでも負担を減らしていく、軽減していくということを考えて検討して実施するというのが私は必要だというふうに思うんですね。

先ほどの高校生の問題だけでちょっと絞って言いますが、何かよく分かりませんが、一定、軽減措置があるとかいう補助率ですか、何かあって、負担が減るんじゃないかという話もありましたけどもね。いずれにしても、先ほど言いましたように、和束町の高校生の通学負担というのは異常に高いです。バスが大体もう7割、8割、9割ですよ。遠くに通学すればするほど負担が重いわけです。今授業料無償というのがありますが、学校の校門に着くまでに授業料に匹敵するぐらいの負担を強いて学校に通ってるわけですね。

前に堀町長がおられるときに、和束の子どもたちに、和束に住んでるからということの宿命を背負わせてはならないんじゃないですかと。せめて学校にたどり着くまでは、ほかの高校生並みにというか、ぐらいの負担で行けるようにしてあげてください

というふうに要望したと思うんです。今こういう状況の中でバス代の値上げもそうですけれども、本当に物価高もありますし、いろんな意味で負担が高い中で、せめて通学定期代ぐらいは負担がないようにしていくという、そういうときじゃないですか。その辺、町長決断していただいてね。せめて来年度からは、定期代については全額無償にしていくという決断をしていただくというときじゃないかと思いますけれども、その辺、町長、お考えないですか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

はい、答弁させていただきます。

私が必要と言った意味をちょっと履き違えてもらってるかも分かりませんが、行政として公共交通機関が必要であるから負担をしているわけでございます。また、私が使うのに必要だからバス乗ってるわけでございます。必要な部分に対しての応分の負担をしているということでございますので、料金の値上げにつきましては、この路線だけ上がるんじゃないと。全ての路線が上がる中での、その分の負担をお願いしたいということでございます。

○議長（吉田哲也君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

答弁いただいてないんですけどね、この路線というのはほかの路線と違うでしょう。国庫補助を受けてる路線でしょう。町が赤字補填している路線でしょう。ほかと同じじゃないじゃないですか。だから言っているんですよ。そういう意味でね、ほかも上がっているんだから、しゃあないやないかというような、そういう考えでは奈良交通に何も言えないという状況だというふうに思うんですけども、今、答弁いただいてないんですけども、高校生の通学補助については、バスの定期代ぐらいはですよ、あと、

まだJRに乗って、その定期代もありますけども、加茂駅に続くぐらいまでのことは無償にしていくという決断をされたらどうですかと伺ってるんですが、いかがですか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

現在のところその点については検討しておりません。

○議長（吉田哲也君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

前町長はこの点については、今後、トンネルの関係で、新しい宇治向きの交通ルートができるかもしれないということもあって、そのことも含めて考えたいとは言っておられました。それは変わってませんか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

先ほども答弁させていただきましたとおり、今までは何とか和東に来てほしい、これが今後は何とか和東を回ってほしい、回るができないのかという答弁をさせていただいております。その点については、各いろんなところと調整をさせていただいているのが現実でございます。

○議長（吉田哲也君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

お答えになってないんですけどね。大分後退すると思いますけどね。堀町長を受け継ぐと話されてましたけども、そういうところは受け継がないということかもしれませんけども、今まで以上に負担が大きい中で、通学というのは教育費ですからね、そ

れがなかったら学校へたどり着かへんわけですから、そういった負担をやはり和東町として責任持って校門までは行けるようにしてあげるということは、ぜひ決断をしていただきたいなと思いますので、これは重ねて要望しておきたいというふうに思います。

最後に、物価高騰対策という範疇の問題ですけども、先ほど町長は、今回の国の施策を受けて、いち早く具体化するということで、胸を張ってこの前発言できたと言われましたけども、それはよくやっていただいたと褒めておきたいと思います。早くよくやっていただきました。

しかし、これで十分でしょうか。国の施策そのものが不十分な中で、早かろうが遅かろうが、若干、商品券を配るのに単費をちょっとだけプラスされたかもしれないけども、これをただ横滑りさせるだけで今の物価高騰が深刻な状況に十分対応できたと、そういうお考えですか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

はい、答弁させていただきます。

岡本議員に褒めていただきましてありがとうございます。その点についてはお礼を申し上げます。

ただ、十分、不十分につきましては、今の段階で私はまだ判断できないと思っております。今後この形がどこまで続くのか不透明である以上、いろんな国の動向、また府の動向を見ながら、新たな施策が出れば新たな施策について町としても検討していきたいと。

ただ、町の財源のみで何かをするというのはなかなか難しいという状況だけのご理解願いたいと思います。

○議長（吉田哲也君）

6 番、岡本議員。

○ 6 番（岡本正意君）

町の財源だけでいろいろするのは難しいと。十分、不十分は今、判断できないと。何で判断できないんですか。もうこんだけ大変なってるんですよ。国の今の施策が十分だったらあんな支持率下がりませんよね。だから、もうちょっとそういう生活感というものを持っていたきたいなと思うんですよ。

先ほど来、財政状況が厳しいと。だから、独自は難しいというふうに繰り返し言われてますけど。もうあえて言いますが、そういう中でも予定されてなかった町葬には 500 万円も出されましたよね。先ほど水道料金の関係で、それをもしやったら、いろんなことをストップしなあかんかもしれんというような脅しみたいなことを言われましたよね。じゃあ、この 500 万円を出すときに何かそういうことを考えたんですか。予定してなかった 500 万円もの大金を 1 人のために出さなあかんと。これをするによって何か事業に影響あるんだろかと考えられましたか。考えてないでしょう、そんなこと。それはもうやらなあかんと思ってね、どこから出されたか知らないけども、500 万円をポンと出された。それも亡くなった 1 人のためですよ。

前町長の功績をたたえたいという熱意はおありになっても、物価高騰で苦しむ、また水道料金の大幅値上げに苦しんでおられる住民生活、そういったものを支えたいと、守りたいという熱意は劣るということですか。町葬をどうしてもやりたいという熱意と、500 万円を出してでもたたえたいというふうなものと、目の前で大変になっている生活を支えたいというところの熱意というのは低いということですかね。

例えば、水道基本料金の例えば 3 か月間免除と提案しましたが、必要な費用というのは、とりあえず約 1,000 万円ぐらいだと思います。これは町葬費用の 2 倍ぐらいの程度ですよ。住民 1 人当たりこれ約 3,000 円ぐらいです。1 人のために 500 万円出せる人が住民 1 人のために 3,000 円も出せない。これはどういう違いがあるんですか。

財政が大変だって言ってる人がですよ、500万円という大金を1人のために使える人がですよ、2倍ぐらいの予算で3か月だけということもできないと。これどういう違いがあるんですか。なぜできないんですか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

はい、答弁させていただきます。

まず、試算の話をさせていただきます。水道料金3か月を減免しますと、もう少しお金がかかると思っております。それと、堀町長1人のために町葬を行ったわけではございません。和東町として町葬を行ったものでございます。これにつきましては、いろんなところからいろんな観点からご意見をいただきながら出せる予算を捻出しながら、最低限のことをさせていただいただけと考えておりますので、ご理解のほうをお願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

最低限のことで500万円かかると。先ほど言ったように、基本的に1人のためじゃないですか。町として1人のために、その功績をたたえるために500万円はポンと出せたと。どこから出されたか知りませんが、何の心配もなく出せたと。だけど、こっちの話になると、財政が厳しい、府内でも指数は大変だと言って独自の財源を出そうとしない。私はこの違いはどこにあるのかと聞いているんですよ。

水道料金のことを何遍も取り上げるのは、そういう声大きいからですよ。どこへ行っても水道の値上げは大変やと。今、本当に物価高でいろんなものが値上がっている中で、どうしても使わなくちゃいけない水道がこんだけ上がるというのは本当に大変だという声が出るからですよ。

この前の委員会で町長ね、こんだけ値上げした背景に、いわゆる統合簡水の関係で3億円ぐらいと見込んでいたのが10億円ぐらいになったと言われましたよね。それがあったからすごい大幅値上げになってしまったと。そんなことは住民に何の関係があるんですか。それは行政の都合だけでしょう。大阪万博じゃないけど、当初こんだけで済むはずやったんがこんなになってしまいましたと。物価が上がってるから、資材が上がってるからしゃあないやないかと。それで、住民に負担を押しつけてね、当初そんな説明もされてませんでしたよね。当時、町長は、説明もなくそういう値上げをされたわけですよ。

あのおときから考えても、今の3億円から10億円になったぐらいに本当に状況は変わっているわけです。行政の都合を言われるのは自由けども、もう少し住民の方の都合も考えていただけませんか、事情も。値上げをしたときよりも本当に数倍にわたって生活が大変になっているわけですから、せめて今年度の最終の3か月ぐらいは、1,000万円以上かかると言われたけども、財源があるんだから、どっちにしたってできるわけだから、事情を斟酌してそういう声に応じてそれぐらいのことはちゃんとやると。それで、10立米に戻すというのも、今の住民の生活状況を考えて、それぐらいのことは最低限と言いましたけどね、ここが一番の5立米にしたというのが水道料金が倍にもなるような大きな原因なんですよ。せめてこれぐらいは見直して、もう少し今の物価高騰とか生活苦の中の状況を見ていただいて、値下げを検討すると。せめて残り3か月ぐらいの基本料金は町長の町葬をしたときぐらいの熱意を持って判断していただいて免除するということはまず検討していただけませんか。

国の財源を急いで横滑りさせるだけじゃなくて、早いのは褒めて差し上げますけども、中身が問題ですから、それで本当に十分支えられるかいうと支えられないわけですからね、町としてできることというのはありますから、そこはちゃんと検討していただけませんか。できるでしょう、どうですか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

はい、答弁させていただきます。

今回の商品券にした理由につきましては、町内で活性化するために商品券にさせていただいたものでございます。

あえて言いますけども、今回の選挙で、私は水道料金について現行を維持する、自分の負担を求めるということで選挙を戦ってまいりました。他の候補の中には、一丁目一番地に水道料金の改定ということを言われた候補者もおられました。その中で私が信託を受けたわけでございます。この点につきましては曲げることができません。

○議長（吉田哲也君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

そういうことは曲げないとかって言われるけども、さっきも言いましたけど、信託を受けたって言うけどもね、じゃあ、何でこんだけみんなが水道料金を何とかしてほしいという声大きいのかということですよ。あなたが選挙を戦った8月よりも、さらにどんだけ物価が上がってるかご存じですか。ですから、もうちょっと住民生活のことを考えていただいて、もともとそんな説明もなしに値上げを強行して、あれだけの値上げを押しつけておいて、さっき言った3億円が10億円になりましたなんていう話もこの前初めて聞きましたよ。そういうようなね、本当に何ていうんですか、あれだけの負担増を住民に押し付けておいて平然としてるような状況じゃないんですよ。やはり水道というのはさっきも言ったように、絶対使わなくちゃいけないものでしょう。今、本当にそういう状況の中でみんな大変になってるわけですから、今そこに応えるのが町長の責任じゃないですか。

さっきの入学時の負担についても、予算だけで言えばですね、これは3月議会のとときに言ったんですけど、子どもの数も少ない状況の中で、小中で大体100万円前後

でできます。この前、町長は、学童保育の利用料を無償にしてほしいと言ったときに、全員対象じゃないから考えてないと言われましたよね。これ全員対象ですよ。町長のお考えもそうじゃないですか。いわゆる選挙のこと言われましたけどね。そういったことについて、さらに前に踏み出していきたいという、そういうこと言われてましたよね。さらに、そういう部分ではやはり求められてます。今、速さをすごく強調されましたけど、今、胸を張ってと言われたその勢いで、これから予算編成があるわけですから、連合ともすぐ相談していただいて、来年の子どもたちに間に合うように、この点についても連合と相談していただいて、まず、検討はしていただけますか。どうですか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

既に子育て支援につきましては、担当課の方に指示を出している関係がございます。いろんなことも含めながら総合的に判断させていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○議長（吉田哲也君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

総合的に判断するということですけども、個別具体的にぜひ実現に向けて検討していただきたいというふうに思います。

先ほど来、水道料金のことを繰り返し言ってますけども、最後にもう一回言っておきますけどね、本当に水道料金の大幅値上げというのがどれだけ住民の皆さんのしんどさになっているかということですよ。ですから、水道法にいう低廉な水を安定的に供給すると。これは水道法の規定ですよ。その低廉という部分が大きく崩れているわけです。それを、せめて水道の基本水量を10立米に戻すということは、最低限、

今の状況を見れば町長が決断されてやるべきことだというふうに思いますので、そこは重ねて要求しておきたいと思いますけども、最後どうですか。もう一回その辺、検討はしていただけますか、いかがですか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

はい、今の答弁につきましては、ご意見として伺っておきます。

○議長（吉田哲也君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

スルーされないようにね、岸田さんじゃないけどもね、聞くだけ聞いてってならないようにお願いしたいと思います。

それで、先ほども言いましたように、国の施策自身が本当に不十分な中で、それをそのままスライドしてやるだけでは到底支えられませんから、しっかりとそこは肉付けをしていただきたいし、それから来年度の予算編成に当たっては、そういった部分での肉付けが全くないなんてことはまかり間違ってもないように検討いただいて、今、言った提案なんかもぜひ実現をしていただきたいと思いますので、そこは強く要望しておきたいと思います。

終わります。

○議長（吉田哲也君）

岡本正意議員の質問を終わります。

以上で、一般質問を終わります。

会議の途中ですが、ただいまから午後3時45分まで休憩いたします。

休憩（午後3時35分～午後3時45分）

○議長（吉田哲也君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第6、同意第18号 和東町有財産管理委員会委員の委嘱についてを議題といたします。

提案理由及び議案の説明を求めます。

町長。

○町長（馬場正実君）

同意第18号の提案理由を申し上げます。

和東町有財産管理委員会委員の任期満了に伴い、新たに同委員の委嘱をいたしたく、和東町有財産管理委員会条例第4条第2項の規定によりまして、議会の同意を求めたく提案させていただいた次第でございます。

どうぞご審議の上、ご同意いただきますようお願い申し上げます。

○議長（吉田哲也君）

総務課長。

○総務課長（岡田博之君）

それでは私の方から、議案の説明をさせていただきます。議案書の方をよろしくお願いたします。

同意第18号

和東町有財産管理委員会委員の委嘱について

別紙の者を和東町有財産管理委員会委員に委嘱したいから、和東町有財産管理委員会条例第4条第2項の規定により、議会の同意を求める。

令和5年12月14日提出

和東町長 馬場 正実

1枚おめくりください。

別紙ということで、今回お願いたします7名の委員の方のお名前等になります。

町有財産管理委員会委員一覧ということで、住所・氏名・年齢の順に説明申し上げます。

ます。

和東町大字中、杉本則行、80歳

和東町大字原山、中井喜彦、77歳

和東町大字釜塚、岸田清一、75歳

和東町大字湯船、小西正富、72歳

和東町大字杣田、大西峰夫、68歳

和東町大字白栖、渡邊弘雄、63歳

和東町大字撰原、松田伸一、62歳

以上でございます。よろしくお願いたします。

○議長（吉田哲也君）

お諮りいたします。

本案は、人事案件につき、質疑、討論を省略したいと思います。

これにご異議ありませんか。

異議なしと認めます。

これより採決いたします。

同意第18号 和東町有財産管理委員会委員の委嘱について、原案のとおり同意することに賛成の方は起立をお願いします。

起立全員です。

したがって、同意第18号 和東町有財産管理委員会委員の委嘱については、原案のとおり同意することに決定いたしました。

日程第7、同意第19号 和東町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

提案理由及び議案の説明を求めます。

町長。

○町長（馬場正実君）

それでは、同意第19号について提案理由を申し上げます。

固定資産評価審査委員会委員3名のうち1名の任期満了に伴い、杉本 守氏を同委員に選任いたしたく、地方税法第423条第3項の規定により、議会の同意を求めたく提案させていただいた次第でございます。

よろしくご審議の上、ご同意いただきますようお願い申し上げます。

○議長（吉田哲也君）

総務課長。

○総務課長（岡田博之君）

続きますので、私の方から議案の説明をさせていただきたいと思っております。

議案書のほうをよろしく願いいたします。

同意第19号

固定資産評価審査委員会委員の選任について

下記の者を固定資産評価審査委員会委員に選任したいので、地方税法第423条第3項の規定によって議会の同意を求める。

記

住 所 : 京都府相楽郡和束町大字中
氏 名 : 杉本 守
年 齢 : 67歳

令和5年12月14日提出

和束町長 馬場 正実

よろしく願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

お諮りいたします。

本案は人事案件につき、質疑、討論を省略したいと思います。

これにご異議ありませんか。

異議なしと認めます。

これより採決いたします。

同意第19号 和東町固定資産評価審査委員会委員の選任について、原案のとおり同意することに賛成の方は起立願います。

起立全員です。

したがって、同意第19号 和東町固定資産評価審査委員会委員の選任については、原案のとおり同意することに決定いたしました。

日程第8、議案第38号 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例を議題といたします。

提案理由及び議案の説明を求めます。

町長。

○町長（馬場正実君）

それでは、議案第38号の提案理由を申し上げます。

議案第38号 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律が公布され、公布の日から起算して1年3か月を超えない範囲内において政令で定める日までに施行されることから、従前の条例の規定を同法による改正を踏まえたものとする必要があるため、本条例の一部改正をいたしたく提案させていただいた次第です。

どうか慎重審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○議長（吉田哲也君）

総務課長。

○総務課長（岡田博之君）

それでは、引き続きまして、私の方から議案の説明をさせていただきます。

議案書のほうをよろしくお願いたします。

議案第38号

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例
上記議案を提出する。

令和5年12月14日提出

和東町長 馬場 正実

1枚おめくりください。こちらが今回の改正する条例案でございます。

議長のお許しをいただいておりますので、概要に基づきまして説明をさせていただきます。

改正条例の次につけさせていただいておりますのが新旧対照表、資料No.38となっております。それをめくっていただきました最後のページになりますが、概要を載せさせていただいておりますので、これに基づき説明をさせていただきます。

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部改正 概要でございます。

今回の改正前の条例におきましては、地方公共団体の長が行う事務のうち個人番号を利用できる事務につきましては、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律、これの別表第2で掲げる事務とされておりましたが、本年6月の法律の改正により別表第2が削除されたため、和東町が今後も個人番号を利用する事務につきましては、条例上で規定する必要があるものでございます。

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の公布に伴い、所要の改正を行わせていただきます。

第2条関係でございますが、第4条の改正に伴いまして、本条例における用語の定

義を新たに定める必要があるため各号を改めさせていただいております。

また、第4条、第5条につきましては、番号利用法第9条第2項の規定に基づき、今申し上げました別表により、個人番号を利用できる事務を定めることとし、個別具体の事務に関して、必要な事項につきましては規則で定めさせていただきます。

なお、附則といたしまして、今般の条例改正につきましては、番号利用法等の改正法による改正を踏まえたものにするものとする必要があるため、施行日につきましては、番号利用法等改正法の施行日とさせていただくものでございます。

よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（吉田哲也君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

4番、高山議員。

○4番（高山豊彦君）

ちょっと確認をさせていただきたいと思います。

今のご説明でですね、概要のところでは別表第2に掲げる事務としていたところを条例で定めるということに今回変わるということで、条例を定めるということですね。

この別表2に表記されていた内容と今回の条例の違いというのは、あるのかないのか。別表のままそのまま条例になるのか。

○議長（吉田哲也君）

総務課長。

○総務課長（岡田博之君）

高山議員のご質問にお答えさせていただきます。

国の別表第2につきましては、たくさんの事務が載せておりました。しかしながら、今回条例に載せさせていただくのは、和東町が個人番号を利用させていただきまして所掌する事務につきまして挙げさせてもらったものでございますので、よろしくお願

いたします。

○議長（吉田哲也君）

ほか、ございませんか。

質疑なしと認めます。

質疑を終結いたします。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

討論なしと認めます。

討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第38号 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

起立全員です。

したがって、議案第38号 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決されました。

日程第9、議案第39号 和束町国民健康保険税条例の一部を改正する条例を議題といたします。

提案理由及び議案の説明を求めます。

町長。

○町長（馬場正実君）

議案第39号 和束町国民健康保険税条例の一部を改正する条例につきましての提案理由を申し上げます。

「全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を

改正する法律」が令和5年5月19日に公布され、国民健康保険税に係る地方税法の一部が改正され、令和6年1月1日に施行されることに伴い、和東町国民健康保険条例の一部を改正する必要性が生じたので、地方自治法第96条第1項第1号の規定により、提案させていただいた次第でございます。

ご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○議長（吉田哲也君）

税住民課長。

○税住民課長（吉田敏江君）

それでは、私のほうから、議案第39号につきましてご説明申し上げます。議案書のほうをよろしく願いいたします。

議案第39号

和東町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

上記議案を提出する。

令和5年12月14日提出

和東町長 馬場 正実

1枚おめくりいただき、和東町国民健康保険税条例の一部を改正する条例でございます。

議長にあらかじめお許しをちょうだいしておりますので、概要によりご説明を申し上げます。

もう1枚おめくりいただきますと新旧対照表でございます。後ほどご確認のほうをよろしく願いいたします。

おめくりいただきますと、最終ページのほうが概要でございます。よろしく願いいたします。

和東町国民健康保険税条例の一部を改正する条例 概要

1. 改正理由

「全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律」が令和5年5月19日に公布され、国民健康保険税に係る地方税法の一部が改正され、令和6年1月1日に施行されることに伴い、改正するものです。

2. 改正概要

第23条第3項【国民健康保険税の減額】新規

第24条の3【出産被保険者に係る届出】新規

共に新設の条文でございます。

・子育て世帯の負担軽減及び次世代育成支援等の観点から、国保世帯に属する被保険者の出産に際し、産前産後期間に係る所得割額及び被保険者均等割額の減額について規定するものでございます。

単体妊娠・出産における4か月分を減額するものでございます。

また、多胎妊娠・出産の場合は6か月分を減額するものでございます。

3. 改正条例の施行日といたしましては、令和6年1月1日でございます。

慎重審議のほど、どうぞよろしく願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

これから質疑を行います。

質疑はありますか。

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

今回の一部改正につきましては、いわゆる妊娠・出産をされる母親の方の国保税の一部を減額するということですので、賛成できるものですが、一応、令和6年1月1日から施行するということになっておりますが、実際この時期に改正した上で、和東町としてのこのような対象になる方というのはどの程度想定されてるんでしょうか。

○議長（吉田哲也君）

税住民課長。

○税住民課長（吉田敏江君）

岡本議員のご質問にお答えいたします。

今現在、把握させていただいてる被保険者の方については、今年度につきましては対象者なしでございます。

以上でございます。

○議長（吉田哲也君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

今後、国保世帯の中でのそういった対象の方は毎年何件かはあるというふうには思いますが、そういった方が多く対象になるように願いたいと思いますが、それで、関連してですね、先ほど一般質問で介護保険料の引下げということについて要望いたしましたけれども、やはりこの国保税のこともですね、和束町では国保世帯が大変多い状況があると思います。そういう中で、国保税の負担というのが大変重くなっているということもございます。そういった点で、今後、一部の税の軽減だけでなく、全体として国保税の負担軽減をしていくということが大変求められているというふうにいるんですけども、来年度以降、この国保税の改定というのが行われる予定なのか、その辺ちょっと方向性だけ、今分かっている範囲で答弁いただけますか。

○議長（吉田哲也君）

税住民課長。

○税住民課長（吉田敏江君）

岡本議員のご質問にお答えいたします。

国保運営協議会におきまして、今現在も国保税の改定におきまして審議の途中でございます。3月議会に向けまして現在も税改定につきまして継続して審議中でございます。

○議長（吉田哲也君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

どういう中身で審議されてるかということがありますけども、負担は少しでも減らしていく方向でぜひ検討いただきたいというふうに思うんですが、それで今、子育て支援という観点で、全国的にも今こういったことを適用する自治体が増えているのが、いわゆる18歳までの被保険者の子どもの均等割などを免除していくというような動きが広がっております。それで、和束町ではお聞きしますと、18歳までの方でいきますと80人ほど子どもの被保険者がおられるというふうに伺っておりますけども、やはり子どもというのは負担能力がありませんし、収入もないという状況の中で、赤ちゃんというか子どもが生まれたときから均等割という形で保険料がかかってくるという状況がございます。そういったことが大変大きく声になって、最近では就学前までは一定軽減するというようなことが国の政策の中でようやく行われるようになってきたわけですけども、これにとどまらずにですね、やはり和束町として、せめて子どもたちの保険料の特に均等割という部分については何らかの軽減措置を行っていく。また、できれば無償化していくというね、これは人頭税とも今言われてるぐらいですね、負担能力のない子どもにまで保険税を払わせるという意味で、大変不当な負担ではないかという声の中で、今これを軽減する自治体も増えてるわけですけども、そういったことも含めて検討をぜひしていただきたいというふうに思ってるんですけども、その辺、町長のお考えはいかがですか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

今のご質問ですが、町としましては、子育て支援に対しましてできる限りの制度を活用したいということは思っております。これは国の考え方がどのように出てくるか

も含めまして、その中で町ができることをしていくということになると思います。

○議長（吉田哲也君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

特に国民健康保険については、他の社会保険の協会けんぽであるとか、そういったものと比べましても大変負担が重いというふうになっております。しかも、この国民健康保険というのは、特に最近やはり年金生活者であるとか、また失業者であるとか、そういう経済基盤が大変弱い方が、最終的にやはり医療を受ける権利をちゃんと保障するという意味で、最後の砦のような形で国保が運営されていますけども、ただ、やはり国の国保への補助も減っていく中で、大変厳しい運営が強いられる中で、そういう経済状況に関わらず、国保は大変保険税が高いという状況が、和東町だけでないですけども、起こっております。そういった点でも、やはり今、特にそういった方に対する負担が大変重くなっている状況もありますので、せめて子どもの保険税については、一定そういう配慮をいただいて、就学前だけじゃなくて、それ以降の18歳までの子どもについては、和東町としても負担軽減を図っていくということをぜひ来年度の改正に向けても検討の俎上に上げていただきたいというふうに思いますので、そこは具体的にそのことについて、町長、もう一度そういったことも検討していただきたいということですけども、そこはどうでしょうか、いかがですか。

○議長（吉田哲也君）

町長。

○町長（馬場正実君）

この国民健康保険といいますのは、日本特有のものであります。国民皆保険ということで行われている事業でございます。今、言われますように、和東の場合ですと高齢者が多くなっている、その方々については国保になってきていると。それと、個人事業主については国保が多いという状況でございます。

その辺につきましては先ほども申しましたとおり、国の動向も見ながら、最近では国保が各町村の運営から都道府県の運営に変わってもきております。この辺のところも動きながら、できる限り負担軽減が図れるよう努力してまいりたいと、そういう要望もしていきたいというふうに思いますので、ご理解のほうをお願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

ほか、質疑はございませんか。

質疑なしと認めます。

質疑を終結いたします。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

討論なしと認めます。

討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第39号 和東町国民健康保険税条例の一部を改正する条例を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

起立全員です。

したがって、議案第39号 和東町国民健康保険税条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決されました。

日程第10、決議第1号 ガザ地区での戦闘の即時停戦を求める決議を議題といたします。

提案理由及び議案の説明を求めます。

高山豊彦議員。

○4番（高山豊彦君）

それでは、私の方から、決議第1号 ガザ地区での戦闘の即時停戦を求める決議について提案させていただきます。

決議第1号

ガザ地区での戦闘の即時停戦を求める決議

上記議案を別紙のとおり、地方自治法第112条及び会議規則第14条の規定に基づき提出します。

令和5年12月14日

提出者 和束町議会議員 高山豊彦

和束町議会議長 吉田哲也 様

ガザ地区での戦闘の即時停戦を求める決議

イスラエルによるパレスチナ・ガザ地区への侵攻と攻撃は、この間、短期間の人道的休戦があったものの、戦闘再開によるガザ地区の人道的危機は極めて深刻な事態となっている。

イスラエルは、難民キャンプや病院施設等にまで攻撃をおこない、多数の民間人を無差別に殺害し、その中で多くの子どもや女性が犠牲となっている。これに対し国連等では「ジェノサイドの危機」「子どもの墓場と化しつつある」等の指摘と共に、即時停戦を求める声が広がっている。

イスラエルの攻撃は明らかな国際人道法違反であり、直ちに止めるべきである。先制攻撃を行い、多数の民間人を人質にしたハマスの行為も国際人道法違反であることは明らかであるが、圧倒的な軍事力を持つイスラエルが、難民キャンプや病院、救急車まで無差別に攻撃し、子どもを含む多数の民間人を殺害していることは、自衛権の行使の範囲を超えている。

私たちは、イスラエル、ハマスが共に直ちに停戦し、人質を解放し、ガザ地区における人道的危機を一刻も早く収束することを強く求める。

以上、決議する。

令和5年12月14日

京都府相楽郡和束町議会

以上です。

各議員のご賛同をよろしくお願いいたします。

○議長（吉田哲也君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

質疑なしと認めます。

質疑を終結いたします。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

討論なしと認めます。

討論を終結いたします。

これより、採決いたします。

決議第1号 ガザ地区での戦闘の即時停戦を求める決議を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

起立多数です。

したがって、決議第1号 ガザ地区での戦闘の即時停戦を求める決議は、原案のとおり可決されました。

日程第11、請願第1号 B & G 海洋センタープール再開および体育館の改修に関する請願を議題といたします。

請願の説明を求めます。

紹介議員、山本達也議員。

○3番（山本達也君）

それでは請願者に代わりまして、皆さんに事前に配布しております請願文書表を読み上げまして説明に代えさせていただきたいと思っております。

この請願と一緒に498筆の署名が集まっております。

その下、令和5年第4回和束町議会定例会請願文書表、受理番号1、受理年月日：令和5年11月29日、件名：B&G海洋センタープール再開および体育館の改修に関する請願、請願の要旨：一つ目は、プール再開を待ち望む町民の声が多く、子供や高齢者の健康維持増進や夏休み中の子供のストレス解消のためにもプールの再開が必要である。二つ目、B&G海洋センターを町民の健康維持促進のための中核施設と位置付け、スポーツマインドを喚起し、利用者を増やすことを目的とし、特に高齢者の医療費負担低減のためにも、「元気で活力ある高齢者」を増やす取組を積極的に実施願いたい。三つ目、老朽化が激しい当該施設をできるだけコストを抑えて町民と一緒に創意工夫することで活気あるスペースとして蘇らせたい。請願者の住所及び氏名：京都府相楽郡和束町南大林12-1、B&Gの未来を考える会 代表 喜多章浩、紹介議員氏名：山本達也。

以上です。よろしくお願い申し上げます。

○議長（吉田哲也君）

これから質疑を行います。

なお、質疑につきましては、総括的な内容にとどめていただきますようお願いいたします。

質疑はありませんか。

4番、高山議員。

○4番（高山豊彦君）

請願ということで、非常に内容的に重要なことかなというふうに考えておりますけれども、その中で何点か質問させていただきたいと思います。

請願趣旨に「プール再開を待ち望む町民の声が多く」とありますが、費用対効果の観点から利用者数は重要だと思うんですが、何名の利用があると想定されておられるのかお答えいただけますか。

○議長（吉田哲也君）

3番、山本議員。

○3番（山本達也君）

私も、一応、総務の方に以前確認をしましたときに、コロナ前で、開いてる期間のプール利用が800名というお話をたしかされていると思うんですが、コロナ前がその状態でした、今度新しくきれいになったという場合は、想定外ではあるんですが、大体800名ぐらい以上を見込みたいと思っているということでございます。

○議長（吉田哲也君）

4番、高山議員。

○4番（高山豊彦君）

ありがとうございます。

次にですね、老朽化が著しい施設をコストを抑えて、町民と一緒に創意工夫することで活力あるスペースを蘇らせたいということでございますが、創意工夫とはどのように工夫されることを想定されておられるのかお聞きします。

○議長（吉田哲也君）

3番、山本議員。

○3番（山本達也君）

こちらのB&Gの未来を考える会の代表も含めて話を聞いたところ、例えば、プールを運営する場合に当たって、そこを監視する監視員ですとか、そういった人たちを保護者の中で割り当てるとか、そこを利用する方々でそういったグループをつくって、みんなで協力して監視員プラスアルファのところですけども、その方々で充当するというようなことを言われているのと、あと、その方々が中心になって、町の中で、言わば町民としての情報ネットワークといいますか、例えば小学校で会われたお母さん同士とか、そういったところの中でどういったことをしてほしいのか、どういったことをすれば利用が増えるのかとかいうことも踏まえて、そういうことを企画をして、イベント企画といいますか、そういったことをして、利用者をできるだけ

増やすようなことをしたいというふうなことをおっしゃってました。

○議長（吉田哲也君）

4番、高山議員。

○4番（高山豊彦君）

すいません、あと2点だけ。

請願事項に、町民と役場等で共同運営するとありますが、どのような組織を想定されているのか、もう既にそういった組織があるのかどうかも含めてなんですが、それとあとアンケートの回答数が103人となっておりますが、これは何名の方にこのアンケートを依頼されたのか、その2点をお答えいただけますか。

○議長（吉田哲也君）

3番、山本議員。

○3番（山本達也君）

お答えします。これはインターネット上でGoogleを使いまして集計をしたアンケートでございます。インターネット上から書き込まれた数値でございます。この中で書いていただいたのが合計103名ということございまして、実際もっと内在する方がおられるかもしれないですが、このアンケート上は103名ということになっております。

町と共同運営といいますのは、今この時点では、町自体が運営管理に当たっているというところで、例えば、役場の方だけが企画をして運営するのではなくて、町と一緒にあって、使い方も含めて、この主となるB&Gの未来を考える会と一緒にどういった使い方をするかを検討させていただきたいというふうにおっしゃられています。

以上です。

○議長（吉田哲也君）

ほか、質疑はございませんか。

質疑なしと認めます。

質疑を終結いたします。

ただいま議題となっています請願第1号は、総務厚生常任委員会に付託することにしたと思います。

これにご異議ありませんか。

異議なしと認めます。

したがって、請願第1号は、総務厚生常任委員会に付託することに決定いたしました。

日程第12、請願第2号 建設アスベスト被害者の救済とアスベスト対策の拡充を求める意見書の提出を求める請願を議題といたします。

請願の説明を求めます。

紹介議員、岡本正意議員。

○6番（岡本正意君）

それでは、請願者に代わりまして、皆さんに事前に配布しております請願文書表を読み上げまして説明に代えさせていただきますが、本来なら、岡田 勇議員の方からその点についてご提案がある予定でありましたけれども、諸事情によりまして私が紹介議員の1人として代わりに読み上げさせていただきますので、お許しいただきたいというふうに思います。

令和5年第4回和東町議会定例会請願文書表、受理番号2、受理年月日：令和5年11月29日、件名：建設アスベスト被害者の救済とアスベスト対策の拡充を求める意見書の提出を求める請願、請願の要旨：2021年5月17日、最高裁判所は建設業従事者のアスベスト被害について、国の責任と大手アスベスト建材製造企業10社の賠償を認める判決を言い渡した。

同判決等を踏まえ、特定石綿被害建設業務労働者等に対する給付金等の支給に関する法律（建設アスベスト給付金法）が成立、2022年1月から国の拠出による建設アスベスト被害者に対する給付金制度が開始された。

しかし、給付金支給対象者は限定されており、アスベスト建材製造企業による補償のあり方も定められていない。

また、大気汚染防止法等のアスベスト関連法の改正により規制が強化され、2022年4月から一定規模以上の工事は事前調査結果の報告が必須となり、2023年10月からは有資格者による事前調査が義務付けられた。

しかし、このように規制を強化しても、それを逃れるために違法行為が行われると、国民や建設業従事者の健康被害も心配されることから、アスベストに関する監視・指導体制の強化についても併せて求められているところである。については、国においては速やかに対策を求めるものである。ということで、請願文章の中に、その後に請願項目として具体的に六つ述べられておりますので、参考にしていただきたいというふうに思います。その上で、いわゆる意見書提出の請願をされているということです。

請願者の住所及び氏名：京都府木津川市加茂町里南古田128-2、全京都建築労働組合相楽支部支部長 徳山政廣、紹介議員氏名：岡田 勇、岡本正意

以上です。よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（吉田哲也君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

質疑なしと認めます。

質疑を終結いたします。

お諮りします。

請願第2号については、会議規則第92条第2項の規定によって、委員会の付託を省略したいと思います。

これにご異議ありませんか。

異議なしと認めます。

したがって、請願第2号については委員会付託を省略することに決定いたしました。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

討論なしと認めます。

討論を終結いたします。

これより、採決いたします。

請願第2号 建設アスベスト被害者の救済とアスベスト対策の拡充を求める意見書の提出を求める請願を採択することに賛成の方は起立願います。

起立多数です。

したがって、請願第2号 建設アスベスト被害者の救済とアスベスト対策の拡充を求める意見書の提出を求める請願は、採択することに決定いたしました。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

なお、次回の本会議は、来る12月21日午前9時30分より本議場で再開いたしますので、ご参集くださいますよう通知いたします。

また、先ほど請願第1号の審査について付託いたしました総務厚生常任委員会委員長から、産業常任委員会へ「連合審査会開催の申し入れをした」との報告を受けております。また、産業常任委員長から同意が出されています。連合審査会は明日12月15日午前9時30分から議会委員会室で開催されますので、ご参集くださいますよう通知します。

本日はご苦労さまでした。

午後4時30分散会

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

和束町議会議長 吉 田 哲 也

会議録署名議員 村 山 一 彦

会議録署名議員 宗 健 司